

JICA 海外協力隊向け実践ガイド

CROSSROADS

APRIL

2024

クロスロード

4



特集

青年海外協力隊事務局発座談会

企画調査員(ボランティア事業)と JICA 海外協力隊 協働のカタチ

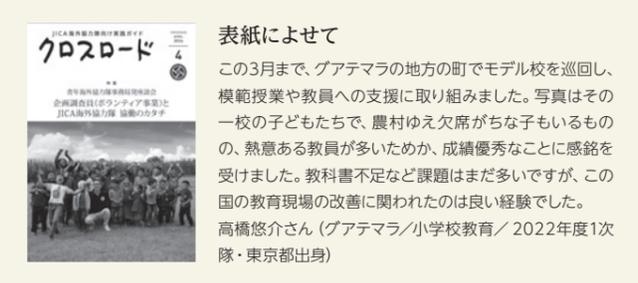


クロスロード

2024 APR

Contents

- 2 子どもたちに伝えたいSDGs ―世界の学校
- 3 ■Contents ■索引
- 4 JICA Volunteers' Reports
- 特集
- 6 青年海外協力隊事務局発座談会
企画調査員(ボランティア事業)と
JICA海外協力隊 協働のカタチ
- 14 派遣国の横顔 コスタリカ
～知っていますか?派遣地域の歴史とこれから
- 21 いま、読みたい電子書籍
- 22 専門家に聞きました!
失敗に学ぶ ～現地で役立つ人間関係のコツ
- 24 この職種の先輩隊員に注目! ～現場で見つけた仕事図鑑
- 26 ひきつけるアイデアを共有
みんなの教材づくり&アクティビティ
- 28 先輩隊員のシューカツ記
- 30 派遣から始まる未来
進学、非営利団体入職や起業の道を選んだ先輩隊員
- 32 JICA海外協力隊派遣現況
- 33 INFORMATION ～JICA青年海外協力隊事務局からのお知らせ～
- 34 あの日、地球の、あの場所で。
- 35 隊員めし 任地の食生活に彩りを!
- 36 公開! 私の派遣国生活



表紙によせて

この3月まで、グアテマラの地方の町でモデル校を巡回し、模範授業や教員への支援に取り組みました。写真はその一校の子どもたちで、農村ゆえ欠席がちなのもいるものの、熱意ある教員が多いためか、成績優秀なことに感銘を受けました。教科書不足など課題はまだ多いですが、この国の教育現場の改善に関わられたのは良い経験でした。
高橋悠介さん(グアテマラ/小学校教育/2022年度1次隊・東京都出身)

■国別索引	掲載ページ
ウガンダ	4
ガーナ	34
カメルーン	7
グアテマラ	1
ケニア	7
コスタリカ	16、17、18、19
タイ	26
タンザニア	23
チリ	35
トンガ	2
フィリピン	5
ブータン	30
ブラジル	24
ペルー	2、21
マラウイ	36
マレーシア	24
ミクロネシア	30
モルディブ	7
ラオス	28

■職種別索引	掲載ページ
コミュニティ開発	7、23、28
建築	30
土壌肥料	16
観光業	7
環境教育	4、18、26、35
陸上競技	2、21
バドミントン	7
野球	24
日本語教育	19
日系日本語学校教師	19
小学校教育	1
デザイン	5
美容師	34
薬剤師	36
作業療法士	17

■出身都道府県別索引	掲載ページ
北海道	16
岩手県	35
茨城県	17、26
埼玉県	7
千葉県	36
東京都	1、18、19、34
神奈川県	2
福井県	21
愛知県	4、7
兵庫県	24、28
岡山県	24、30
広島県	23
熊本県	5、7

【凡例】

JICA海外協力隊の隊員(経験者を含む)については、次のように表記しています。

国際協力さん(ケニア/環境教育/2019年度1次隊)
氏名 派遣国 職種 隊次

「JICA海外協力隊」には「青年海外協力隊」「海外協力隊」「シニア海外協力隊」「日系社会青年海外協力隊」「日系社会海外協力隊」「日系社会シニア海外協力隊」があります。

『クロスロード』(通常号)は、JICA海外協力隊が活動・生活を円滑に行うための実践的な情報、および帰国後の進路開拓や社会還元をする際の情報を提供する雑誌で、年に10回発行しています。
編集・発行: 独立行政法人国際協力機構 青年海外協力隊事務局



南米大会に出場したペルーの棒高跳びチームと松井さん(中央)



子どもたちにクラウチングスタートの方法を教える松井さん

子どもたちに
伝えたいSDGs
世界の学校

陸上競技の学校で青少年が体力づくり 棒高跳びの南米大会出場選手も輩出

松井義美さん(SV/トンガ/陸上競技/2016年度1次隊、SV/ペルー/陸上競技/2019年度2次隊、2021年度7次隊・神奈川県出身)

ペルーの首都リマの国立スポーツセンターが実施している陸上アカデミーで、5〜18歳の青少年に向けて、体力づくりを主な目的に、短距離走、長距離走、走り幅跳びなどの陸上競技の基本を教えました。

着任時はちょうど学校が夏休みになる1〜2月で、この時期は午前中から気温が上がりに、日焼け止めを塗り、サングラスをかけ、首まで覆う帽子をかぶって、看護師も見守る中での練習です。

子どもたちはマット運動が苦手だったり、短距離走のクラウチングスタートを知らなかったりと、学校の体育で基礎があまり教えられていないようでした。そこで私は、マットでの回転運動や、敏捷性やジャンプ力の向上など、基礎的な動きを取り入れる練習を工夫しました。

5歳までのグループは遊具に近い道具を使って楽しく学んでもらい、小中学生には短距離走の走り方やリレーのバトンパスの方法を教え、高校生以上には体力強化や各種目の技術向上を目指してトレーニングをしました。それぞれの年齢なりに得たものがあるはずですが、私が帰国した後も、彼らが他の子どもたちに教えられるようになってほしいと願って指導しました。

私の専門が棒高跳びと知ったアカデミー以外の陸上クラブのコーチなどから「指導を任せたい」という連絡が来るようになり、配属先の陸上競技連盟の承認も得て、夏休みが終わってから、棒高跳びを中心に教えるようになりました。棒高跳びは、棒にぶら下がるという空中の動作がある、面白い競技です。

家の事情や仕事のために遅れたり、しばらく来なくなったりする子もいましたが、「私は必ずいるから、何時に来ても、どんなレベルでも教える」と伝えて練習を続けてもらいました。指導の結果、南米大会で金メダルを取る選手やペルーの20歳以下の大会で銅メダルを取る選手も出てきたことは嬉しかったです。

from Malaysia



出会った仲間と地球貢献するために 社会実装の場をつくり、事業成長を支援する

高木史郎さん (フィリピン/デザイン/2014年度2次隊・熊本県出身)

今年の1月16日、マレーシアの経済特区・サイバージヤに「センターオブガレージ マレーシア（以下、COGMY）」を開業しました。センターオブガレージとは、研究成果の社会実装（※1）を目指すベンチャー企業のためのインキュベーション施設（※2）です。研究者、町工場、事業会社と共に国内地域や海外の人や技術をつなぎ、世界を変える事業の創出を目指しています。

現在、COGMYにはマレーシアのローカルベンチャー企業10社、日本のベンチャー企業10社、パートナー企業10社が入居しています。それらの企業の研究開発に必要な場所や環境を提供するだけでなく、コミュニケーションとして入居者同士をつなぎ、それぞれの課題の解決はもちろん、より高度な社会課題の解決に向けた共創を仕掛けていくことが私の役割です。

マレーシアは、東南アジア諸国の中でインドネシアに次ぐ規模のイスラム国家であり、先進的な活動を積極的に取り入れる風土があるので、ここから東南アジア、アフリカ、中東、ヨーロッパへと、世界に活動を広げていくハブとしての役割を確立していきたいと考えています。

私が所属する株式会社リバナスは、「科学技術の発展と地球貢献を実現する」をビジョンに掲げ、知識製造業を営む組織です。知識製造業とは、日本の産業が再び世界で不可欠な存在に

をしているのが一層珍しいのか、時には子どもから人種差別的な言葉をかけられたりもして、それに怒ったり落ち込んだりすることもありました。それでも幼稚園くらいの小さな子などは、私が車輪つきのコンテナを引いていくと素直に「ゴミを入れてくれるので」「ああ、まだ希望はあるんだな」と感じたりしています。

一方、ゴミ箱自体が足りないために清掃員の作業負担が大きいという問題があり、昨年4月頃から事務方にしつこく訴えていたところ、マーケティングチームなどが協力してくれて、数カ月後にウガンダの企業からゴミ箱10基の寄贈を受けることができました。

一連の取り組みの中で清掃員たちとの距離も縮まり、作業上の困り事などを聞けるようになっていきます。清掃員から上に意見を出すことは難しいので、外国から来たボランティアとしての立場が生きている部分だと感じています。

不特定多数の来園者の意識変容は長い道のりですが、配属先の意識は着実に変わってきました。敷地内や周辺の清掃活動を呼びかけたところ、当初は教育スタッフたちしか参加してくれなかったものが今では他部署にまで拡大し、多い時には40人も参加するまでになりました。今後は社



1 COGMYの開業により、日本のセンターオブガレージを訪れるマレーシアのベンチャー企業が増えたという 2 日本のセンターオブガレージ内に設置した入居企業向け展示場「ガレージミュージアム」



なるために必要な概念のことで、次のように定義しています。【知識と知識の組み合わせによって新たな知識をつくり出すこと。そして新たな知識によって未解決の課題を解決すること】。

化粧品などのパッケージデザインをしていた私は、先進国向けの大量消費のためのデザインではなく、世界の人口の90%に当たる人々のためのデザインがしたいと考え、2014年に協力隊に参加しました。その活動中に出会ったのが、現職のリバナスです。ビジョンに共感して帰国後の17年に入社しました。18年4月に開業した「センターオブガレージ」（東京都墨田区）の立ち上げは入社して最初の仕事です。23年6月よりCOGMYの設立に向け、現地調査、内装設計、ネットワーク構築、事業計画策定、契約書策定、運営マニュアル作りに至るまでトータルで携わってきました。

実は、当初マレーシアではなくフィリピンに設立する予定でしたが、コロナ禍で、80万円の機械を運ぶための輸送費が700万円かかることが判明し、費用対効果の観点から断念したという経緯があります。マレーシアで実績をつくり、数年後にはフィリピンにもセンターオブガレージを設立し、派遣国に貢献したいと思っています。

また、出身地である熊本県や栃木県では、地域から世界で活躍するメガベンチャーを生み出すために、「テックプラント」という科学技術の社会実

※1 社会実装…研究開発によって得られた知識や技術といった成果を社会課題解決のために応用、展開すること。
※2 インキュベーション施設…起業家育成や事業創出を支援する施設のこと。
※3 アクセラレーションプログラム…ベンチャー企業や中小企業向け、事業成長を伴走型で推進する取り組みのこと。

from Uganda



動物の展示への助言から廃棄物対策まで 取り組みの幅を広げて活動中

加藤夕貴さん (ウガンダ/環境教育/2022年度2次隊・愛知県出身)

野生動物に関わる仕事を夢見て獣医学科に進学するも、国内でそうした進路は乏しくて悩んでいたところ、協力隊で自分の希望に近い要請があることを知って応募しました。配属先は、首都カンパラから車で1時間ほどの場所にあるウガンダ野生動物保護教育センター（UWEC）。動物園を兼ねた政府直轄の施設で、密猟などで傷つけられたり親を失ったりした保護動物が一般公開されています。

UWECには観光客や、学校からの社会科見学の子どもたちがやって来るので、自然や野生動物への関心を引き出すためのプログラムや展示物を充実させるのが主な要請です。自然保護教育のスタッフと一緒に、動物の説明パネルにクイズを添えて興味を引くようにしたり、動物の重さを実際に抱えて体験できる模型を作ったりといった工夫を行ってきました。

そうした活動と共に力を入れてるのが、敷地内のゴミ対策です。廃棄物の分野は私の専門ではないのですが、来園者が平気で昼食などのゴミをポイ捨てしていることに着任早々衝撃を受け、活動序盤から取り組んできました。

まず始めたのは、清掃員たちと一緒に敷地内の散乱したゴミを集めて回ること。ただ、ゴミをきちんと捨てる習慣が乏しい上に、外国人が作業

をしているのが一層珍しいのか、時には子どもから人種差別的な言葉をかけられたりもして、それに怒ったり落ち込んだりすることもありました。それでも幼稚園くらいの小さな子などは、私が車輪つきのコンテナを引いていくと素直に「ゴミを入れてくれるので」「ああ、まだ希望はあるんだな」と感じたりしています。

一方、ゴミ箱自体が足りないために清掃員の作業負担が大きいという問題があり、昨年4月頃から事務方にしつこく訴えていたところ、マーケティングチームなどが協力してくれて、数カ月後にウガンダの企業からゴミ箱10基の寄贈を受けることができました。

一連の取り組みの中で清掃員たちとの距離も縮まり、作業上の困り事などを聞けるようになっていきます。清掃員から上に意見を出すことは難しいので、外国から来たボランティアとしての立場が生きている部分だと感じています。

不特定多数の来園者の意識変容は長い道のりですが、配属先の意識は着実に変わってきました。敷地内や周辺の清掃活動を呼びかけたところ、当初は教育スタッフたちしか参加してくれなかったものが今では他部署にまで拡大し、多い時には40人も参加するまでになりました。今後は社

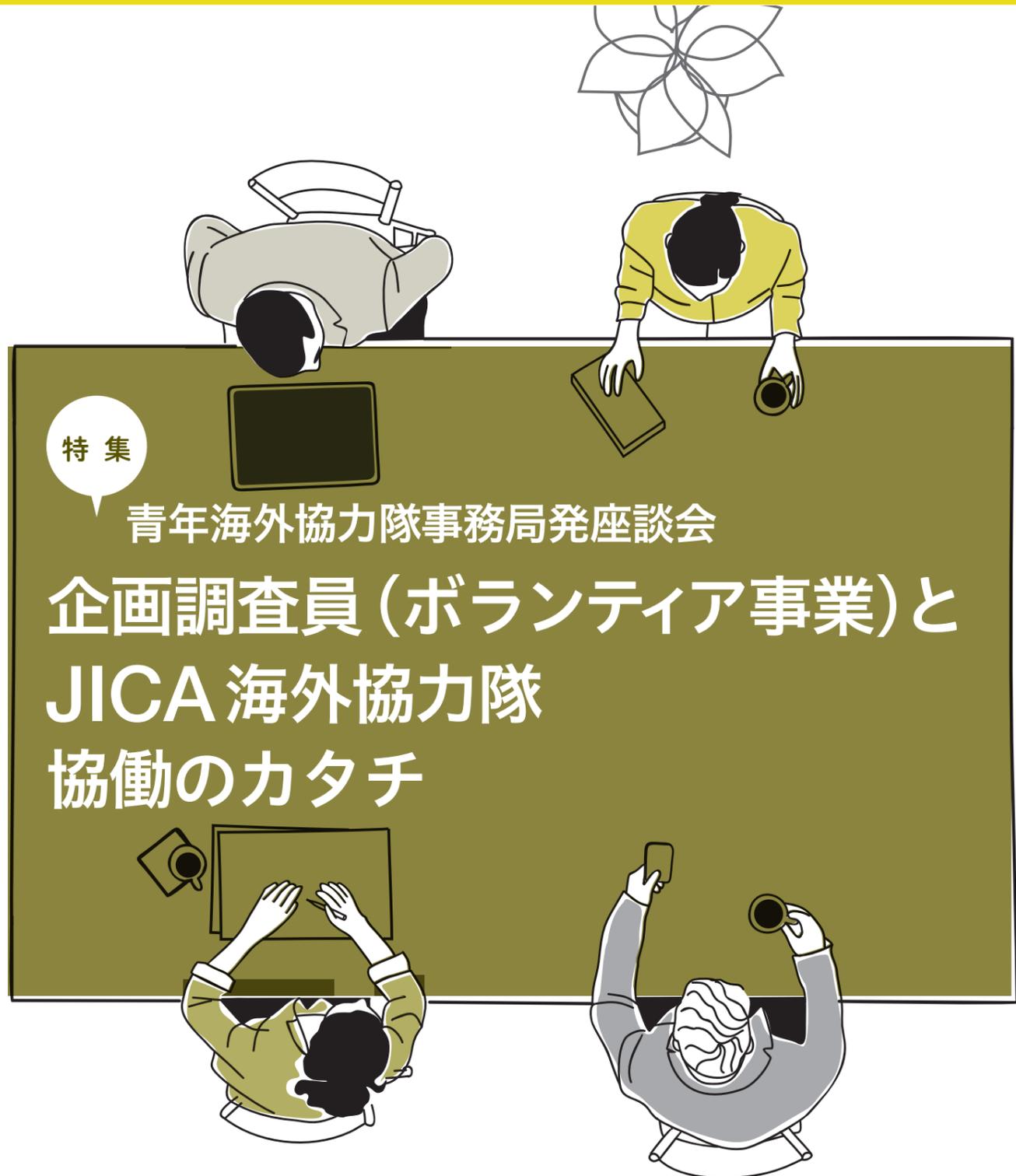


1 スタッフたちと行った地域コミュニティでの清掃活動。最近では施設内や周囲だけでなく近隣のコミュニティにも出張し、環境意識の啓発を兼ねた活動も実施している 2 現地で獣医師として活動することはもちろんできないが、スタッフを手伝う中で動物と接することも多い



本座談会に参加して下さった、
青年海外協力隊事務局在籍のVC経験者の皆さん

- (写真左から)
- | | | |
|---------------------|--|--|
| わたなべひろかず
渡邊宏和さん | | 隊員経験：なし
VC 経験：ポリビア |
| おおたかこ
太田貴子さん | | 隊員経験：ケニア/観光業/1999年度2次隊・熊本県
VC 経験：ブータン、パキスタン、フィジー、エジプト、
モルディブ、ガーナ、ミャンマー |
| わかいくこ
若井郁子さん | | 隊員経験：モルディブ/バドミントン/1996年度3次隊・埼玉県
VC 経験：ラオス、パキスタン、バングラデシュ、パヌアツ、
エチオピア、モンゴル、モルディブ |
| さかきばらかつとし
榎原克利さん | | 隊員経験：カメルーン/コミュニティ開発/2018年度3次隊・愛知県
VC 経験：マダガスカル |



特集

青年海外協力隊事務局発座談会 企画調査員(ボランティア事業)と JICA 海外協力隊 協働のカタチ

現役隊員が派遣国で最もお世話になり頼れる存在が、「在外事務所の企画調査員(ボランティア事業)」(通称: VC - Volunteer Coordinator) ではないだろうか。青年海外協力隊事務局内で、VC経験のある職員に集ってもらい、VCの仕事全般、また隊員活動をうまく側面・伴走支援するコツを聞いた。

Text=大宮冬洋 Photo=ホシカワミナコ(本誌)
イメージ写真提供=原田真梨子さん(P8)、飯舘一樹(本誌 P10) 画像提供=JICAマダガスカル事務所(P12 買い物すぐろく)

企画調査員(ボランティア事業)の 業務を知ろう

企画調査員(ボランティア事業)(以下、VC)は、「国際協力の表舞台」に立つ JICA 海外協力隊を陰で支える「ボランティア事業のプロ」として、在外事務所などの拠点に勤務し、協力隊活動全般をサポートする。2024年2月現在、72カ所の在外拠点で166人のVCが勤務している。主な業務内容を「2023年度第2回企画調査員(ボランティア事業)募集要項」から見ていく。

- 事業計画策定に関する業務
 - ・ 該当国の開発課題の分析、他事業やスキームとの連携の検討
 - ・ 国連や国際機関、NGOなど他機関との連携の検討
- 案件形成・要請開拓に関する業務
 - ・ 協力隊派遣に関する現地ニーズの確認(要請条件の調査や助言含む)
 - ・ 相手国関係者との折衝(個別案件と事業計画の確認)
- 活動支援、生活支援に関する業務
 - ・ 安全対策や健康管理(情報収集や調査・分析)
 - ・ 隊員の助言者・メンターとしての役割(コーチング)
- その他
 - ・ JICA 本部との調整、経理業務や事務処理
 - ・ 必要に応じ、ボランティア事業以外の業務(技術協力、有償・無償資金協力、経理、調達業務などの一部)

要望調査票作りから隊員の受け入れ準備、生活支援まで。
私たちは「何でも屋」と思っています。



編集室 右で紹介したVCの仕事の具
体的に教えてもらえますか。

渡邊さん VC業務は要請開拓と隊員
の活動支援に大別されると思います。
JICA海外協力隊はODAの一環な
ので、日本政府が定めた国別開発協力
方針・事業展開計画に基づくことはも
ちろん、現地の社会課題や現場の声に
寄り添った要請開拓、そして事業計画

をじっくり時間をかけて作っていくこ
とが大切です。
きめ細やかな調整業務をすればするほ
ど事務作業も自然と増えてしまうので、
そこを上手にやりくりするのも大事で
すね。

若井さん 要請開拓を具体的に言うと、
配属先となる政府機関やNGOなどを
回って「要望調査票」を一つずつ作っ

ていく業務です。場合によっては「新
しいプロジェクトをやってみよう」と
いったざっくりした要望だったりする
ので、何度も訪問して課題やニーズを
つかんで具体的な内容にしていき、な
おかつ相手国政府からの正式な書類を
取りつける必要があります。

太田さん 先方のニーズをしつかりと
くみ取った上で要望調査票を作らない



渡邊宏和さん

Profile：大学休学中に欧州への遊学（英国、スペイン）と南米での在外公館派遣員（ポリビア）を経験。卒業後、在ポリビア日本国大使館開発協力班やJICAポリビア事務所ボランティア班で国際協力に従事。9年間の海外勤務を経て2019年に帰国し、青年海外協力隊事務局にて事業評価や企画調査員（ボランティア事業）の赴任前研修を担当。21年に職員登用され、現在は同青年海外協力隊事務局で南部アフリカ地域の国担当や栄養分野の担当のほか、ナショナルスタッフ研修の企画・運営などを行っている。



渡邊さんのキャリアパスはこちらで読めます
<https://partner.jica.go.jp/Contents/careerDetail?htmlName=INT-0079>

と、隊員が来た後でミスマッチが起きてしまいます。年に2回の隊員募集に向け、多くの要望調査票を丁寧に作るのにはかなりボリュームのある作業です。榎原さん 日本政府の事業展開計画と相手国のニーズを踏まえつつ、隊員が実際にどこで・だれと・どのよう生活動をするのかを想像しながら作成する必要がありますよね。

編集室 隊員にとって自分ごとになるのは、隊員支援業務かと思いますが。こちらはどんなことがありますか。

若井さん 例えば受け入れ準備です。隊員の活動場所を提供するのは相手国の役割ですが、執務室すら用意されていないことがあったりします。必ず現場に行つて確認しています。

榎原さん 隊員の住居も同じですね。住居も基本的に配属先が用意することになってはいるものの、事務所で探す場合もあります。いずれにしても最終的に我々や安全管理担当者の目で現物を見て、安全面などで問題がないかも含めて確認します。

若井さん 隊員が住む家のドアの鍵を二重ロックにするために、鍵を買って取りつけるといったこともありますよね。とにかく私たちは「何でも屋」と思っています。



活動報告会の仕切りや隊員総会の手配などもVCの仕事の一つ

榎原さん 配属先や政府機関への表敬訪問の手配や引率も欠かせません。病院や警察などにも「この隊員に何かあった時はよろしく願います」と挨拶しています。

渡邊さん 生活面のケアは隊員の安全と健康にダイレクトに影響するのですごく大事ですね。隊員は現地の方たちと同等の水準で生活しますが、それでいて最低限の安全と健康は堅持するという微妙なバランスを取る必要があるので。

挨拶に伺います。1日で何件も回るのだから、その日は隊員本人も私たちがクタクタになります。

編集室 隊員からの相談事はどのタイミングから多くなる印象がありますか。

若井さん だいたい任地に着いて2、3日のうちに何かあります（笑）。「家の水が出ません」とか「大家さんに家賃を請求されました」など、生活周りからでしょうか。

渡邊さん 個人差はありますが、特に最初の3カ月、半年は、今まで体験したことのないような環境の中で精神的にも肉体的にも不安定になる場合が多いと思います。

榎原さん 性格的に助けを求めるシグナルを出せない人もいますので、まったく相談がないのも心配ですね。現地になじんでもらうためにVCは世話を焼き過ぎないようにしていますが、隊員の様子は常に気にしています。

太田さん 最初の3カ月程度は任地から離れないことを原則とするルールを設けている事務所もあります。現地で

check



自分の要請が派遣国の課題のどの部分に当たるか確認しよう

ODA（政府開発援助）の開発協力方針や事業展開計画は現地ニーズを踏まえて作成される。そのなかにJOCVのスキーム欄があり、VCはこの計画を踏まえながら要請開拓を行い、国別JICA海外協力隊事業計画を更新している。



https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/seisaku/kuni_enjoy_kakkoku.html#section1



▼国別の事業展開計画の例

【国別開発協力方針】別紙		対タイ王国 事業展開計画		2020年2月 現在	
基本方針 （大目標）	戦略的パートナーシップに基づく双方の利益増進及び地域発展への貢献の推進				
重点分野1 （中目標）	持続的な経済の発展と成熟する社会への対応				
【現状と課題】	【事業展開への対応方針】				
タイ国内のタイが今後も更に発展を遂げるためには、産業競争力の維持・強化が必要であり、産業の高付加価値化、生産性の向上が課題となっている。タイの経済的成長が持続することを踏まえ、タイの成長性向上の基盤となる産業人材の育成に資する協力を進める。	タイ国内のタイが今後も更に発展を遂げるためには、産業競争力の維持・強化が必要であり、産業の高付加価値化、生産性の向上が課題となっている。タイの経済的成長が持続することを踏まえ、タイの成長性向上の基盤となる産業人材の育成に資する協力を進める。				
別紙課題1-1 （中目標） 産業人材の育成	協力プログラム名	協力プログラム概要	事業名	スキーム	実施状況
				2018年度 2019年度 2020年度 2021年度 2022年度	実施状況 2019年
	産業人材育成プログラム	産業界と連携を促進した産業人材の育成を行う。	産業人材育成プログラム	JOCV	
			産業人材育成プログラム	JOCV	
			産業人材育成プログラム	JOCV	

出典：外務省ウェブサイト「各国の国別開発協力方針・事業展開計画」

の生活と人間関係に慣れることが活動の大前提だからです。

渡邊さん 在外事務所から遠い任地で活動する隊員も多いので、協力隊事業に理解がある現地のキーパーソン（具体的には日本で研修したことのある方や技術協力プロジェクトの関係者など）を隊員の周りに配置しておくこともとても有効です。信頼できる人間が近くにいてくれると思うだけで、VCも気持ち的に余裕が生まれます。

若井さん 現地のキーパーソンに何かお願いする時には、在外事務所のナショナルスタッフ（以下、NS）に動いてもらうこともあります。とはいえ、VCは基本的に気が休まることはありません。寝る時もベッドの脇に携帯電話を置いて寝て、隊員に何かあったらすぐに対応できるようにしています。

太田さん VC同士も密接に連携しています。例えば隊員からの相談事や何かトラブルが起きたという時、男女それぞれのVCがいる場合は、内容によつては男性が、または女性が対応するなどの役割分担が可能です。

当然、VCも事務所も隊員に対して一枚岩で当たります。人によつて対応や言うことが変わったりしたら、隊員からの信頼をなくしてしまいます。隊員が依存も孤立もしないように、組織と

して隊員を見守っています。

榎原さん 締め切りがある事務仕事も膨大にある中で、隊員という現場は待つてくれませんかからね。

VCは常に優先順位を把握しながら動く必要があります。隊員から質問や提案があり、事務所としての回答を要する場合などは、上長に確認した上で回答をするようにしています。

太田さん 隊員が書く活動報告書は2年間で5回の提出義務があります。これにもVCがコメントを書きますが、報告書の内容によつてはかなり考えて書くようにしています。

若井さん 中間面談や活動報告会のアレンジも私たちの仕事です。飛行機のチケットを紛失してしまう事があるなど、やつぱり必ず何か起きるんですね。新隊員が落ち着く頃にはその次の隊員の隊員たちが赴任してきたりするので、また受け入れ準備も必要です。

渡邊さん 意外と思われるかもしれませんが、榎原さんが言われるようにVCには実務の力がとても大切なんです。隊員支援と同時並行でいろいろな業務をこなす必要があります。ルーティン業務だけでも年間スケジュールはびっしり。予算管理や広報発信、有事対応なども含まれると。



若井郁子 さん

Profile：中学からバドミントンを始め、社会人まで競技を続け、ヨネックス株式会社を退職後、協力隊員としてモルディブでバドミントン指導に当たる。帰国後、JICAボランティア事業に関わる仕事を続け、複数のJICA在外拠点にて企画調査員（ボランティア事業）と、青年海外協力隊事務局にて国内での支援に従事。現在は青年海外協力隊事務局課題業務・選考課にてIT、通信インフラ、エネルギー、商業・金融の担当に加え、スポーツ分野の総括を行い、これらの課題に関わる支援を行っている。

若井さん 積極的な人は紹介された人の名前をノートに記しながらどんどん現地の人間関係に入っていくっていいですね、こちらが覚えるだけでなく、覚

若井さん 村の人からお茶に誘ってもらった行きましよう。活動状況にもよりますが、現地の風習であれば活動をサボっているという罪悪感を持つ必要はありませんし、いろんな人と一緒にお茶をして話すことで活動のヒントを得られたり、現地の人と意外なつながりが生まれると思います。

太田さん そして、活動が軌道に乗って忙しくなってきたり毎日睡眠は十分に取ること。特に年齢が若い隊員の方は、土日も誘われるままに動き回り過ぎた結果、体調を壊してしまうことも少なくないので、無理は禁物です。

編集室 任期序盤から終盤まで、隊員はとにかくいろいろな人に会います。相手の名前と顔を覚え、自分のことも知ってもらうコツはありますか。

太田貴子 さん

Profile：国際会議運営会社や旅行会社など民間企業勤務を経て、協力隊に参加。ケニアのモンバサにある職業訓練校の観光コースで講師として活動を行う。帰国後は、複数のJICA在外拠点での企画調査員（ボランティア事業）業務のほか、二本松訓練所、青年海外協力隊事務局での国内支援業務など、現在まで20年以上にわたりJICAボランティア事業に関わっている。2023年6月より青年海外協力隊事務局海外業務第一課で東南アジア・大洋州地域6カ国の国担当として、2度目の勤務についている。



太田さん 健康管理員（HA）が常駐している在外事務所もあります。彼らは健康の専門家なので、自己管理を基本としつつも、体調面で何か不安なことがあれば相談してください。

生活面では、私の経験則にすぎませんが、人間はやはり食が基本だと思います。現地の食事が合わないとか自分で作れないという理由で食が細くなっている人はみるみるうちに元気がなくなっていくと思います。またホームステイ先や同僚から「いつでも食事を提供してあげる」と言われているのに、自分の殻に閉じこもって行けない人もいます。

孤立して体が弱ると考え方もネガティブになって負のスパイラルに陥りやすくなります。これは語学能力ではなく、性格やコミュニケーション能力の問題のような気がします。

榎原さん 現地に溶け込んで、何かあった時に必要な助けを得られる人は、隊員としての活動だけでなくプライベートも充実させている印象があります。スポーツなどを通して現地の人と親しくなりつつ、気分転換を図ること



「常にフルパワーで仕事をしないこと」の大切さを、ベテランVCから教わりました。

いるかがわかってきて、自然と体が動きますと思います。

渡邊さん 頑張るって「覚えよう」とするのはなく、その相手に関心を持つて接することが大切かなと思います。誰しも自分に興味を持ってもらえるのは嬉しいので、自然と名前を覚えてくれますよね。

在外事務所と一緒に働いていたNSは「あなたの両親や家族は元気？」などと、家族のことまで気にかけてくれていた。こういった会話の積み重ねでお互いのことを覚えていきますし、「この人は自分を深く知ろうとしてくれる、仲間なのだ」という感覚が芽生えていきます。僕はそのNSから敬意や関心をもって接することの大切さを教わりました。

太田さん 相手にとっても日本の名前が覚えにくいものなので、現地の人が覚えやすいニックネームで呼んでもらうのもいいかもしれません。

また、「おはようございます、〇〇さん」と相手の名前を呼んであげることから相手からも喜ばれますし、毎回口に出して呼んでいるといつの間にか名前が覚えていくようになると思います。



プライベートでも現地の人々と積極的に関わり溶け込んでみよう

渡邊さん 任期中、多くのVCが体調を崩さないように細心の注意をして、気を張っているといます。

僕はベテランのVCから「常にフルパ

ワーで仕事をしないこと」の大切さを教わりました。VCの仕事は膨大にあるけれど、気持ち的に余裕を残しておかないと想定外の事態に適切に対応することができなかつたり、周囲への配慮が不十分になってしまいうからです。常に100パーセント以上の力を出してしまいがちの方には参考になる考え方もありません。

編集室 活動がうまくいくようなアドバイスも頂けますか。

榎原さん 隊員は何かしらの成果を出すために焦りがちですが、現地での生活を通して人々と交流し、特にすることがなくても配属先に顔を出す、それだけでも活動になっていくと僕は思います。逆に言えば、さまざまな人に会って現地に溶け込まないと何も始まりません。活動に直接関係のない人との関わりも、地域では大きな意味があつたりします。

渡邊さん 榎原さん、いいVCですね（笑）。僕も同じ意見です。焦っていきなり活動を進めようとしても信頼関係は生まれませんし、本当の意味で協力してくれる人は現れないと思うので、まずは周りの人と一緒にごはんを食べる、ゆっくり話をして、仲良くなることが大切だと思います。次第に、その人たちが何に困っていて、何に満足して

編集室 隊員からは「要請内容が現地で理解されていない」「インターンと間違われた」という声を聞いたりします。なぜここにいるかといった説明を含め、自己紹介の仕方についてアドバイスがあれば教えてください。

若井さん 「ここにはこんな課題があるから私がやって来た」という言い方をすると、現地のことを否定したように聞こえてしまいます。

誰だつて自分が住んでいる地域や仕事のことを悪く言われたら気分が良くありません。言い方には注意が必要ですが自分は派遣された国で受け入れてもらっているのだという謙虚な気持ちも大切だと思います。

榎原さん 村落地域では家族の絆がとりわけ強かつたりしますから、いきなり活動の話などをせずに、自分のほうから日本にいる家族の写真を見せたりすると、思いのほか喜ばれます。

先に自己開示をして信頼関係を築きながら、自分が来た目的などを話していくとよいのかもしれないですね。

太田さん 隊員が協力隊の役割や意義





ショップを開催しました。
この活動が最終的に JICA の技術協力プロジェクトに発展しました。歳月が必要でしたが、隊員が現場で見つけた課題への行動が発端となり、大きな取り組みへと広がっていきました。こんな可能性も信じながら隊員の活動を支えていくことが VC の仕事だと思っています。

編集室 協力隊後に VC を目指す方もいると思います。最後に、仕事のやりがいと共にどんな人が向いているかを教えてください。

太田さん 最初はとにかく世話が焼けた隊員がたくましくなって、2年後の活動報告会ではその国の人たちに堂々と感謝の言葉を述べていたりします。そういう姿を見るとホロッとくることも多く、VC をやっていてよかったと思う瞬間です。

榊原さん 隊員は現地での活動を通して次第にたくましくなっています。「協力隊員になっていく」と表現できるのではないのでしょうか。その姿を傍らで見られるのは何にも代

え難い喜びです。自分が直接にはなく、隊員を通して国際協力をしているというのも僕の性質に合っています。今後もチャンスがあれば、VC として隊員と関わっていききたいです。

渡邊さん VC はすごく楽しくて充足感のある仕事なんだと思いますね。隊員と現地の方が一体となって活動し、お互いの境界線がなくなるくらいの信頼でつながり、人間として成長するプロセスを間近で見られるわけですから、一人ひとりにユニークなストーリーがあつて、面白いんです。イレギュラー対応ばかりで大変な仕事なんです（笑）、そういうものが一瞬で吹き飛んでお釣りが来るくらい、やりがいのある仕事だと思いますね。

若井さん 協力隊員としては「素人さん」だった人が、現場に入って模索して少しずつ成長していきます。次の隊員が3カ月後に来ると、「私はまだ何も活動できていないのに」と焦りを口にする人もいますが、そんなことはありません。1年後にはすっかり現地化して、習慣も身につけ半分ぐらいその国の人になっていたり（笑）。そういう

した結果、CP に考えていたことが伝わり、関係性が一気に良くなったそうです。現地での活動も進むようになりました。

若井さん 隊員と CP などの関係が悪化した際、お互いに言いたいことを吐き出す機会をつくるために、私たち VC が間に入ることもあります。

聞いてみると、気持ちが擦れ違ったきっかけはほんのささいなことだったりするんです。現地の人からは「（大切なおもてなしの文化である）お茶や食事に誘ったのにあなたは断ったじゃないか」とか「最初に挨拶に来なかった」、隊員からは「お願いしたことをやってくれなかった」といったことですね。

本音をさらけ出して話をする事で信頼関係が生まれたり、CP がサポートしてくれる範囲とそうでない範囲の区別がつかたりするものです。

編集室 逆に印象に残っている、隊員の成長の例はありますか。

榊原さん 成果品で言うと、各国の隊員が作り上げてきたものはたくさんあり、そのリストが在在外事務所では隊員向けに公開されていたり、リスト化されていないけど、VC に聞けば教えてもらえらると思います。

赴任していたマダガスカルでは、事務

着任当初は世話が焼けた隊員が2年後、派遣国の人々に感謝していてホロリ。



check ↓

VC に求められる能力、資質とは？

- ▶ コミュニケーション能力（ファシリテーション能力、語学力・交渉力、ボランティア事業のプロとしての意識およびバランス感覚、チームプレーヤーとしての協調性）
- ▶ 開発に関する情報分析能力・課題解決能力・専門的な知識
- ▶ 健康と自己管理能力・安全管理能力
- ▶ 事務処理能力

出典：「2023年度第2回企画調査員（ボランティア事業）募集要項」より

榊原 克利 さん

Profile：大学在学中、在ハイチ日本国大使館で在外公館派遣員として勤務。大学卒業後、国内での民間企業勤務を経て、協力隊に参加。カメルーンで水の防衛隊として住民の水衛生環境の改善活動に従事。2020年3月に、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、退避・一時帰国。その後、国際協力機構国内事業部外国人材受入支援室で国内協力員や国際協力推進員、JICAマダガスカル事務所企画調査員（ボランティア事業）として勤務。現在は青年海外協力隊事務局参加促進課で募集広報業務を担当。



をすべての人に説明する必要はないと思います。その隊員がどんな活動をしているのかを周りが徐々に理解していけば、「あなたは何しに来たのか」なんて聞かれなくなっていくと思います。

渡邊さん 「自己開示」、とっても大切ですね。最初のうちはカウンターパート（以下、CP）とじっくり関係を築き、その人を通して自身や活動の目的などを伝えていくのもいいかもしれません。繰り返してしまっていますが、相手に何かを伝えたい時に大切なのは敬意や関心、あるいは信頼だと思います。その意味で、懸け橋になってくれる方と仲良くなることはとても大切です。現地の文化と慣習を理解し、尊重しながら生活していると、属性ではなく、自分自身を見てくれるようになると思います。複数の隊員を見ていて、活動がうまくいくきっかけはそういうところにあるように思いました。

編集室 現地での人間関係がうまくいかず、苦しい思いをする隊員もいます。良い方法はありませんか。

榊原さん 本音でぶつかってみることでしょうか。

ある隊員は体調を崩しがちになるほど活動に悩み続けていました。そこで CP に今まで悩んでいたことを洗いざらい話して「日本に帰りたい」と大泣き

した結果、CP に考えていたことが伝わり、関係性が一気に良くなったそうです。現地での活動も進むようになりました。

若井さん 隊員と CP などの関係が悪化した際、お互いに言いたいことを吐き出す機会をつくるために、私たち VC が間に入ることもあります。

聞いてみると、気持ちが擦れ違ったきっかけはほんのささいなことだったりするんです。現地の人からは「（大切なおもてなしの文化である）お茶や食事に誘ったのにあなたは断ったじゃないか」とか「最初に挨拶に来なかった」、隊員からは「お願いしたことをやってくれなかった」といったことですね。

本音をさらけ出して話をする事で信頼関係が生まれたり、CP がサポートしてくれる範囲とそうでない範囲の区別がつかたりするものです。

編集室 逆に印象に残っている、隊員の成長の例はありますか。

榊原さん 成果品で言うと、各国の隊員が作り上げてきたものはたくさんあり、そのリストが在在外事務所では隊員向けに公開されていたり、リスト化されていないけど、VC に聞けば教えてもらえらると思います。

赴任していたマダガスカルでは、事務

所料理のレシピ本や「買い物すごろく」などの過去の成果品を集めたキットが置いてありました。有名なものは、マダガスカルの人気歌手と隊員が一緒に作ってヒットした「手洗いソング」などがあります。こうした成果品はいろんな隊員が関わりながら引き継がれていたりして、隊員同士の横のつながりをつくるツールにもなっています。

マダガスカル隊員が作った「買い物すごろく」

使い方は下記「JICA 海外協力隊の世界日記」にも記載があります

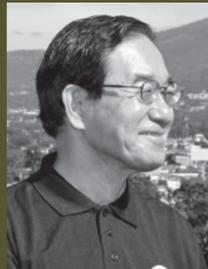
https://world-diary.jica.go.jp/umenagayui/activity/post_18.php

若井さん ラオスでは、隊員の活動が JICA の技術協力プロジェクトにも発展しました。

ラオスは乳幼児死亡率が高いことで知られる国の一つで、特に未熟児などは放置されて死亡していました。そのことに問題意識を抱いた一人の隊員が同じ助産師職種の隊員に相談し、ミーティングを重ね、やはり国全体で意識を変えないといけないという話になり、専門家に相談し、保健省主催のワーク

VC は修士号を求められませんが、一定の語学力と健康体であれば応募することができます。たくさんの方々が VC を目指すような、そんな事業であり続けてほしいと思います。

太田さん VC は想像以上にさまざまな業務を求められるので、いろんなことをやりたい人に向いていると思います。自分は好奇心旺盛だと思ってる人は JICA の公募ページを参考にしてください。チャレンジしてほしいです。



お話を伺ったのは

たかの たかし
高野 剛さん

PROFILE

JICAコスタリカ支所長。1982年国際協力事業団(現JICA)入団。ホンジュラス、中南米部、ジャマイカなどでの勤務を経て、2022年5月から現職。



テノリオ火山国立公園内を流れるセレステ川の美しい滝。エコツアーが盛んなコスタリカでは、隊員たちもよく自然散策を楽しんでいる(写真提供=JICAコスタリカ支所)

青年海外協力隊の派遣は中米で2番目の74年に始まり、この50年間の協力は分野は教育や農林水産、保健医療、日本語教育と多岐にわたり、現在は特に環境教育、日本語教育、社会的弱者支援に関わる要請が増えている。また、初代隊員4名全員が柔道や水泳などスポーツの職種で、スポーツを通じた青

少年育成に長年貢献していることも特徴だ。特に野球では、2023年から長期派遣では初の女性の野球隊員が活動中であるほか、桜美林大学と連携し多数の短期隊員派遣を行っている。既に高所得国の仲間入りを果たしたコスタリカだが、カリブ海沿岸・国境地域などの地方と都市部の格差が大きく、環境保全でも廃棄物処理などの課題が残る。コスタリカ支所の高野剛所長は、「対コスタリカの協力は格差是正と環境分野が主な柱です。今、隊員派遣は都市部中心ですが、24年度中には地方へも増やしていきたいと考えています」と話す。さらに「コスタリカは50年に及ぶJICAの協力で多くの技術や知見を培っており、それを他の中南米域内に共に広げたい強いパートナー国です。隊員活動の成果も域内協力につながっていくと期待します」。

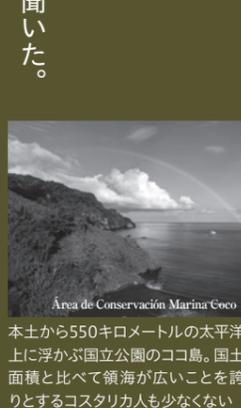
OVで、今はJICAコスタリカ支所に企画調査員「企画」として勤める大澤正喜さん(生態調査/パナマ/

中米に位置するコスタリカは、四国と九州を合わせたほどの国土に約500万人が住む小国だ。豊かな生態系を守るため国土の4分の1を国立公園や保護区にし、電力のほぼ100%を再生可能エネルギーで賄う環境先進国として知られる。16世紀以降、スペイン植民地を経て1821年にグアテマラなどと共に独立するも、メキシコへの併合などがあり、48年に真の独立を果たす。20世紀に入り、1948年に内戦を経験するも翌年に憲法を改正し軍隊を廃止。中米で最も進んだ民主主義国家として教育と医療・福祉に力を入れ、安定した社会を築いてきた。

1991年度3次隊、シニア隊員/コスタリカ/村落開発普及員/2001年度0次隊)は「技術水準の高い要請が多く配属先の知識も豊富ですが、それを実行に移す上でギャップがあり、その理由を共に探って実行策を考えていくことが重要です。そうした活動成果が中南米地域のスタンダードになる可能性を秘めています」とつけ加える。

コスタリカ人の気質は日本人にも理解しやすいというのは、ナショナルスタッフとしてボランティア事業を担当する五十嵐彩子さんだ。「距離感が近すぎず、相手を尊重して話し合いで物事の解決を図る平和主義な気質があります」。また、他のスペイン語圏にはない独特の「プーラ・ビダ」という言葉があり、「直訳すると『最高の人生』という意味ですが、『最高』『絶対調』などのポジティブなメッセージとして使われます。家族が元気なこと、ご飯が食べられることなど、ささやかなことを幸せだと感じられる人たちです」。

協力の柱は環境保全と格差是正中米随一の民主主義国家



Área de Conservación Marina Coco
本土から550キロメートルの太平洋上に浮かぶ国立公園のココ島。国土面積と比べて領海が広いことを誇りとするコスタリカ人も少なくない

派遣国の横顔

知っていますか？ 派遣地域の歴史とこれから 〈コスタリカ〉

豊かな自然を生かしたエコツーリズムが盛んで、軍備を持たず平和を愛する国として知られるコスタリカ。協力隊の派遣は今年10月に50周年を迎える。

コスタリカの基礎知識

<p>コスタリカ共和国</p> <p>面積：51,100平方キロメートル(九州と四国を合わせた面積)</p> <p>人口：約515万人(2021年、世界銀行)</p> <p>首都：サンホセ</p> <p>民族：ヨーロッパ系および先住民との混血が多数、中南米系(ニカラグア系、コロンビア系、ベネズエラ系)、ジャマイカ系、先住民系、ユダヤ系、中国系</p> <p>言語：スペイン語</p> <p>宗教：カトリック教(国教、ただし信教の自由あり)</p> <p>※2024年1月19日現在 出典：外務省ホームページ https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/costarica/data.html</p>	<p>派遣実績</p> <p>派遣取極締結日：1973年6月26日</p> <p>派遣取極締結地：サンホセ</p> <p>派遣開始：1974年10月</p> <p>派遣隊員累計：761人</p> <p>※2024年2月29日現在 出典：国際協力機構(JICA)</p>
---	---

おおしま あい
大島愛さん

作業療法士 / 2016年度1次隊・茨城県出身

PROFILE

大学卒業後、4年半、作業療法士として日本国内の総合病院に勤務。フィリピンへの語学留学、オーストラリアでのワーキングホリデーなどを経て、「作業療法士として海外で働きたい」と協力隊に参加。帰国後、訪問看護事業を行う企業で作業療法士として勤務する傍ら、協力隊仲間2人とコスタリカコーヒーなどの輸入販売を行うNatuRica(ナチュリカ)をクラウドファンディングで設立。収益でコスタリカの障害者自立センター「モルフォ」を支援している。



教師と保護者向けに研修を行う大島さん。食事やトイレの練習も学校と家庭の両方で行えるよう動きかけた



ブリッサ村の展示畑で、任地の農家に有機栽培の実証について説明する佐々木さん



ささき しょうご
佐々木正吾さん

土壌肥料 / 1987年度3次隊、シニア隊員 / 土壌肥料 / 1990年度0次隊・北海道出身

PROFILE

帯広畜産大学で畜産環境学を専攻。卒業後、環境計量証明事業を行う民間企業での勤務を経て協力隊に参加。グループ派遣「環境に優しい農業プロジェクト」のシニア隊員、ドミニカ共和国やエルサルバドルでJICA専門家として活動後、2005年から宮崎県で「しょうご農園」を営む。12～19年にはJICAの研修員を受け入れ、有機栽培と自然養鶏の組み合わせによる小規模有機複合農業の知識や技術を伝えた。

中進国の課題と可能性を感じて
コスタリカで隊員たちは中進国が持つ課題に向き合って活動してきた。土壌肥料、作業療法士、環境教育、日本語教育の活動を紹介する。

農業漬けの野菜から
安心安全な野菜へ。有機農業の
ノウハウを伝えた隊員

約40年前、環境意識が高まり始めたコスタリカで、農業や化学肥料を使わない有機農業のノウハウをゼロから築いて教えた一人の協力隊員がいる。1987年、土壌肥料隊員として派遣された佐々木正吾さんだ。根づいた技術は任地の農家によってコスタリカ国内はもとより、中南米各地へと広がっている。

佐々木さんの配属先は標高1800メートルの山間の農業地帯サルセロにあるブリッサ農業協同組合。恵まれた気候の下で年間通じて高原野菜を生産していたが、トラクターなどが入りにくい急斜面の狭い農地で、農家はスコップのみの重労働による作業を行っていた。そこで手軽に多くの収穫を得るために農業と化学肥料が多用され、結

間と共に、ボカシ肥の導入や育苗法の改善、木酢液などの自然農薬の利用を組み合わせて野菜栽培を実施。1年後には化学肥料や農薬を使わずにキャベツ、レタス、ジャガイモ、ブロッコリーなど多くの野菜の生産に成功した。

農家によるコスタリカ初の有機農法の実現だったため、「有機肥料による健康なキャベツ」と全国紙に取り上げられて大きな反響を呼び、全国から視察が相次いだ。大手スーパーの契約栽培にもこぎ着けた。

その後、周辺農家に技術が普及してサルセロは有機野菜の一大生産地として有名になり、ガブリエルさんらは中南米の他地域にも技術を伝えるまでになった。農場の世代交代も進み、2代

活動の舞台裏

1日4回はコーヒータイム

コスタリカは中米で初めてコーヒー産業を発展させた国で、高品質なコーヒーで知られる。コーヒーは外貨獲得の重要な手段となるため、生産しても飲む習慣はないという国も多いが、コスタリカでは生産量の4分の1近くが国内消費されている。

「スーパーなどでも回転が速く、常に新鮮なものが棚に並び価格も安いです」と言うのは大島愛さん。家庭では布製フィルターのネルドリップでコーヒーを入れる



スーパーの棚一面に並び、自国産のさまざまなブランドのコーヒーが並び、安くビッグサイズ

という。「紙のフィルターを使うよりもコクがあっておいしく、洗って繰り返し使えて節約にもなるんです」

朝、10時のおやつ、昼食時、午後のカフェタイムと1日4回はコーヒーの時間がある生活を経て、「日本へ戻っても、お店でドリップコーヒーを頼むより自分で入れたほうが良いと思うようになりました(笑)」と言う大島さん。帰国後は同期隊員3人でコスタリカ産のコーヒーや雑貨などの輸入販売会社「NatuRica」を起こし、現地の障害者支援につなげてきた。

輸送費の高騰や円安など厳しい環境が続く中、今年2月から個人事業へと転換したが「今後も同様にコーヒーなどの販売を行い、支援を続けながらコスタリカの魅力を日本に届けていきたい」という。

果、土が痩せて傾斜地では表土が流出して耕地が荒廃し、作物の生育不良や病害虫の発生が深刻化。農業技術についての基礎知識をあまり持たない農民はマスクや手袋を使用せずに農業散布を行っていたため、健康被害も懸念される状況になっていた。

配属先からの要請内容は、土壌分析と施肥設計の手法を農協職員に指導すること。そこから農民に適切な施肥方法の指導を行うことが考えられていた。しかし、畑地を見て回った佐々木さんは化学肥料・農薬の大量使用を防ぐためには根本的解決につながる土壌の質の回復が重要と考え、有機質肥料の製造技術の確立と普及を農協長にかけ合った。

「農作業の経験はなかったけれど、持てる知識でやってみるしかない。チャレンジさせてもらいました」

まず試みたのが安価で導入できる堆肥作り。酪農地帯でもあったため牛糞、野菜の残渣などを利用し、勉強会に集まってきた農民10人と始めた。

スコップで牛糞を集めてきて他の材料と共に積み上げ、発酵分解を促すために途中で積み替える「切り返し」を月に1回行い、完成までに3カ月かかった。便利な化学肥料に慣れていた農民にとって手間のかかる大変な作業で、3回目の堆肥作りを行う頃にはほとんどが興味を失っていた。「自分も就農した今になって思えば、

目の息子・娘たちが活躍している。

隊員時代、ガブリエルさんらが苦勞しながらも生き生きと働く姿に農家の喜びを感じ、いずれ自分も農業をやろうと決めたという佐々木さん。現在、宮崎県で有機栽培の米・野菜と自然鶏卵を生産販売しながら、途上国へ技術を伝え続けている。

支援不足の地方の特別支援学校で

保護者も巻き込んで自立支援

福祉国家として知られるコスタリカ。障害者支援のための政策や制度整備が進む中で、障害者の物理的アクセスや医療を含む社会サービスの実施面

農家の人たちには多くの作業があつて重労働なのがわかります。実情をきちんと理解せずに、『土をよくするために必要だから、ぜひやってください』と勢いで進めてしまった。失敗でした。たった一人、堆肥作りを継続してくれたのがのちに成功モデルとなるガブリエルさんだ。その地に入植して浅く、貸畑で野菜を作る努力家で研究熱心人と違う新しい方法を求めていた。

「子どもが生まれたばかりで、この地での農業に危機感を持っていた。そこに僕が現れたので『こいつと一緒にやってみよう』と思ってくれたようです」

佐々木さんは、堆肥よりも肥料効果の高い発酵有機質肥料「ボカシ肥」を導入することにした。日本の伝統的な農業技術だが、化学肥料の出現と共にあまり使われなくなったものだ。鶏糞や米糠などの新鮮な有機物を混ぜて発酵させることで有効微生物による効果も期待でき、仕上げに乾燥させるので堆肥に比べ軽量で扱いやすい。約10日で製造でき、コストも化学肥料購入の3分の1になった。比較実証のための展示畑で自らもボカシ肥と他の有機農業技術を使って野菜を栽培すると、化学肥料と比べ生育には勝るとも劣らない効果が認められた。

「農民は新しい技術を頭で理解しても、誰かが成功してもうける様子を見なければ信用しない」と感じていた佐々木さん。ガブリエルさんの畑でその仲

が追いつかないというギャップが存在してきた。特に地方においては医療人材の不足から、適切なリハビリテーションが行われていない状況がある。

そんな課題に取り組んだ一人が作業療法士隊員の大島愛さんだ。2016年からカリブ海に面した東部リモン県グアシモ市にある公立のグアピレス特別支援学校で活動した。

0歳から21歳まで約180人のさまざまな障害のある生徒が通っているが、車椅子や姿勢補助具などの道具の供給が不十分。カリブ海沿岸地域は産業が少なく、貧しい家庭も多い。道具の購入も難しいため、廃材を使った補助具や自動具の作製・使用方法を同僚である教員や生徒の保護者に指導する

なかのま
仲野麻理さん

日系SV/ブラジル/日系日本語学校教師/2012年度0次隊、コスタリカ/日本語教育/2019年度2次隊、2022年度7次隊・東京都出身

PROFILE

神奈川県内の小学校で28年間教員を務めた後、日本語教師資格を取得。日本語学校で日本在住の外国人や留学生に日本語を教える。東日本大震災後のボランティア活動を機に、JICA海外協力隊に応募。2012年から日系SVとしてブラジルで日本語教師に指導法などを教える。その後、日本で日本語教育に携わった後、再度、協力隊に参加。コスタリカ派遣から4カ月でコロナ禍により一時帰国。1年4カ月間の待機を経て、22年7月末に再派遣。



日本語の授業を行う仲野さん。パワーポイントにはスペイン語の解説文も添えてわかりやすい内容にしている

「初めて会う日本人ということで見えてくると、2回目以降の授業では真剣に話を聞いてくれるようになりました」。公園内の動植物を観察させてその生態を教えたほか、国立公園と民家が近いためシカやサルなど多くの動物がゴミをあさって病気になるというなど、さまざまなテーマについて伝えた藤本さん。その傍ら、小学校でゴミ分別の啓発やコンポストのワークショップにも取り組んだ。自然教室に来た学校の引率教員でコンポストに関心を持った人がいれば、その学校にどんな出向いた。学校菜園を行っているところが多かったこともあり、肥料として使ってくれるようになった。コスタリカの人々は環境への意識が高く、理解を得られやすい。そう藤本さんが感じる出来事は他にもあった。野生動物へのゴミ被害を軽減する目的で蓋つきゴミ箱を設置することになった際、予算捻出のため、藤本さんはT

「日本をもっと知りたい」「意欲の高い学生たちに真摯に向き合う日本語教師」。コスタリカでは日本語学習熱が非常に高い。アニメやゲームなどのポップカルチャー人気を背景に、中米域内の

学習者数ではメキシコに次ぐ規模になっている。長年の日本語教育支援もこの国への協力の特微で、JICAは現在、国立のコスタリカ大学とナシヨナル大学に日本語教育隊員を派遣している。首都の本校ではコスタリカ人の日本語教師も育ってきているが、地方の分校にはおらず、増え続ける学習希望者のニーズに答え切れない状況だ。そんな中で奮闘しているのが、コロナ禍での一斉帰国を経て2022年7月末に再派遣された仲野麻理さんだ。



自然教室に来た子どもたちと藤本さん。首都から離れたニカラグア国境近くの地域で日本人は珍しく、覚えてもらいやすかった



ふじもとゆうた
藤本優太さん

環境教育/2015年度4次隊・東京都出身

PROFILE

大学で環境教育を専攻。卒業後、海外旅行中にネパール地震の発生に居合わせた際、現地のJICA事務所員と話す機会を得て、海外に長期滞在する方法の一つとして協力隊があることを知って応募した。帰国後は環境省のアクティブレンジャーとして日光国立公園で働いた後、造園を行う総合建設会社勤務を経て、現在は自治体職員。

「CPはやる気のある優秀な理学療法士。身体機能自体の改善を重視していたので、食事やトイレといった生活や習慣についてあまり問題意識を持っていなかったのです。でも、一緒にJICAの在外研修などで学ぶうちに障害のある子どもの生活への理解が進んで

「折り紙アクセサリープロジェクト」を開始。生徒の母親に折り紙を教え、低コストでできるアクセサリーを製作、販売するというものだ。同僚と協力して校内のバザーで販売すると売り上げは上々。その後も続く学校と保

配属先は中北部のサンラモン市にあるコスタリカ大学のオキシデンテ校。教養課程の選択制第2外国語として学生に初級(日本語Ⅰ、日本語Ⅱ)を教え、8クラス、延べ約150人に教えてきた。そのほか、大学の休暇中には大学が実施する一般市民向けの講座や子ども向けの日本文化教室も担当する。授業では日本語を使ってコミュニケーションすることを目標に、自己紹介や買い物などいろいろな場面で使える日本語を中心に教えている。その中で生活や文化のトピックに触れ、学生からの質問に応じて解説する。質問は「日本人の苗字や名前はなぜ一つなの?」など、日本人からするとユニークなもの。スペイン語圏では両親の苗字を二つとも受け継ぐことが当たり前で、名前もセカンドネームまであり長いため、日本人の名前の構成は興味深かったようだ。その質問に対して、仲野さ

「CPはやる気のある優秀な理学療法士。身体機能自体の改善を重視していたので、食事やトイレといった生活や習慣についてあまり問題意識を持っていなかったのです。でも、一緒にJICAの在外研修などで学ぶうちに障害のある子どもの生活への理解が進んで

「折り紙アクセサリープロジェクト」を開始。生徒の母親に折り紙を教え、低コストでできるアクセサリーを製作、販売するというものだ。同僚と協力して校内のバザーで販売すると売り上げは上々。その後も続く学校と保

配属先は中北部のサンラモン市にあるコスタリカ大学のオキシデンテ校。教養課程の選択制第2外国語として学生に初級(日本語Ⅰ、日本語Ⅱ)を教え、8クラス、延べ約150人に教えてきた。そのほか、大学の休暇中には大学が実施する一般市民向けの講座や子ども向けの日本文化教室も担当する。授業では日本語を使ってコミュニケーションすることを目標に、自己紹介や買い物などいろいろな場面で使える日本語を中心に教えている。その中で生活や文化のトピックに触れ、学生からの質問に応じて解説する。質問は「日本人の苗字や名前はなぜ一つなの?」など、日本人からするとユニークなもの。スペイン語圏では両親の苗字を二つとも受け継ぐことが当たり前で、名前もセカンドネームまであり長いため、日本人の名前の構成は興味深かったようだ。その質問に対して、仲野さ

「CPはやる気のある優秀な理学療法士。身体機能自体の改善を重視していたので、食事やトイレといった生活や習慣についてあまり問題意識を持っていなかったのです。でも、一緒にJICAの在外研修などで学ぶうちに障害のある子どもの生活への理解が進んで

「折り紙アクセサリープロジェクト」を開始。生徒の母親に折り紙を教え、低コストでできるアクセサリーを製作、販売するというものだ。同僚と協力して校内のバザーで販売すると売り上げは上々。その後も続く学校と保

配属先は中北部のサンラモン市にあるコスタリカ大学のオキシデンテ校。教養課程の選択制第2外国語として学生に初級(日本語Ⅰ、日本語Ⅱ)を教え、8クラス、延べ約150人に教えてきた。そのほか、大学の休暇中には大学が実施する一般市民向けの講座や子ども向けの日本文化教室も担当する。授業では日本語を使ってコミュニケーションすることを目標に、自己紹介や買い物などいろいろな場面で使える日本語を中心に教えている。その中で生活や文化のトピックに触れ、学生からの質問に応じて解説する。質問は「日本人の苗字や名前はなぜ一つなの?」など、日本人からするとユニークなもの。スペイン語圏では両親の苗字を二つとも受け継ぐことが当たり前で、名前もセカンドネームまであり長いため、日本人の名前の構成は興味深かったようだ。その質問に対して、仲野さ



いま、 読みたい 電子書籍

ペルーでの愉快的な、
でも少し壮絶なスポーツ協力

著：綿谷章
発行：(株)佐伯コミュニケーションズ出版事業部



<https://books.rakuten.co.jp/rk/999d7bc1864e395ab0784dba22f560f1/>

「原点」を問いながら続けた活動 80年代隊員が振り返るボランティアの在り方

「おまえを雇った覚えはない、帰れ！」

著者でペルーの陸上競技隊員だった綿谷章さんが赴任した当時、意気軒高として出かけた活動初日に、いきなり上司の陸上協会会長から受けた一言である。政権交代による人事異動で、綿谷さんの受け入れが伝わっていなかった。

活動序盤から出鼻をくじかれた綿谷さんだったが、めげずに陸上競技場へ毎日通って自らトレーニングをしつつ、周りのペルー人選手から請われれば「もぐり」で指導もした。1カ月後、その一人が国際大会の選手選考会でペルー新記録を出して優勝。「日本人コーチのアキラ・ワタヤのおかげ」というコメントが新聞で取り上げられると、先の陸上協会会長からも認められ、正式に協会で活動できることになった。思いがけないトラブルに見舞われた時の行動が状況を切り開い

たエピソードだ。

本書には、こうしたペルーでの数々のトラブルを綿谷さんが試行錯誤しながら乗り越えていった姿が自叙伝としてつづられている。「時代や技術の在り方が変わっても、より派遣国に貢献するにはコミュニティに溶け込む力やコミュニケーション能力が大切で、それはずっと変わりませんよね。その部分は今の隊員の方々にも参考になるかもしれません」。

綿谷さんは隊員としての任期の後も国際交流基金の専門家などとして合計9年もの間ペルーで陸上競技指導に従事。教え子とソウルオリンピックへの参加もした。1989年にペルーを去ったが、今では教え子たちが行政や競技連盟、学校などの中核的な人材に育ち、現地のスポーツ界をけん引している。「協力隊員は野球でいうと中継ぎのピッ

チャーのような存在だと思います。何か新たに始めなくても、自分が行く前から現地の人や前任の隊員が取り組んでいたことを支え、自分が帰った後は、誰かが引き継いでいくのも立派な活動です。今振り返って言えるのは、2年の活動期間はそれで終わりではなく、自分にとって現地の人にとっても一生の変化につながっていくはずだということです」

本書の中でも一貫しているのは人との出会いを大切に、生かす姿勢である。また、綿谷さんは活動がうまくいかず落ち込んだ時や、逆に調子が良く優越感を持ってしまいそうな時は「何のための活動か」「指導の理念は何か」と自らに問い、原点に立ち返ることを心がけた。80年代と現代では途上国社会も国際協力の現場も様変わりしているが、そうしたスタンスに学べる点は多いはずだ。

この方に
聞きました！



著者
わたや あきら
綿谷章さん
ペルー／陸上競技/
1980年度1次隊・福井県出身



仲野さんは、授業では巻き寿司や天ぷらなど日本料理の体験を通じて日本文化を知ってもらうことも大切にしている

活動の舞台裏

やはり素晴らしい自然大国

国土の両岸が海に挟まれ、起伏に富んだ地形をしているコスタリカ。地域によって降水量や気温がまったく異なる気候で、隊員は普段の生活でも貴重な野生動物に出会うことがある。

「私の任地ではケツァールが飛んでいました」と言うのは、北西部の山間地域にいた佐々木さん。世界一美しい鳥といわれ、漫画家の手塚治虫が『火の鳥』のモデルにしたとされる鳥だ。村から森に出かけると珍しい鳥をたくさん見かけたという。



①世界一美しい鳥とも形容されるケツァール
②ビッドなツートンカラーのくちばしのオオハシ。国立公園のガイドツアーに参加すると、特に珍しい動物が見られる(写真提供=いづれも大島 愛さん)

カリブ海沿いの熱帯地域にいた大島さんは通勤途中で野生のナマケモノや鮮やかな色のくちばしを持つオオハシなどに出くわした。「早朝の出動はまるで動物園のようでした。国立公園などでガイドを雇えば、確実にもっと珍しい動物に出会えます」。

活動先が国立公園だった藤本さんは多数の国立公園の視察に行っている。中でも、オスティオナル野生生物保護区では、数万匹のウミガメが一斉に上陸して産卵する「アリバダ」を目撃。一斉産卵は1年にたった数日だけというもので、貴重な体験になった。

んは自身の家系図を見せたり、日本では結婚によって夫婦どちらかの姓を選ぶことなどを説明したりもした。
コスタリカ派遣が決まって初めてスペイン語を学び、今も苦労しているという仲野さん。授業で伝えたい内容を漏らさないようパワーポイントにわかりやすくまとめたものを使う。
「スペイン語で作成するので大変なのですが、生徒が納得してくれている顔を見ると、よかったですと思います」
仲野さんは、日本語クラスの生徒が真面目で勤勉なことに感心している。概して時間にルーズな傾向があるコスタリカだが、日本の規律を知ってもらうため、授業をほぼ定刻通りに開始す

ることを徹底した。すると、遅刻者がほぼいなくなり、授業の30分も前から教室で待つ学生まで出てきた。「宿題もきちんと提出し、真剣に学び、教師を尊敬するところは日本人に共通するものを感じます」。
コスタリカは他の中南米諸国のような日本人移住の歴史や日系企業の進出が少ないため「日本」について触れる機会は限られる。それだけに、「遠く離れた日本についてSNSなどでは得られないものを生徒たちに提供したい」と、過去にシニアボランティアが造った日本庭園へ遠足に行ったり、書道・折り紙・料理などの日本文化体験の企画にも力を入れている。

残り数カ月には迫った任期終了までに計画しているイベントは、配属先である大学と日本大使館共催の日本祭りの2回目の開催だ。1回目は再赴任から10カ月目を実施。隣の市で日本祭りを開催したことがある環境教育隊員の脈を元に協力先を見つけていき、盆栽や武道などコスタリカ人のみで活動する団体の参加も得られた。JICA支所や他の隊員たちの協力もあり、約800人の市民が集まった。
「皆さんの協力あってこそ成功で、本当に感謝しています。次は雨期前の4月に開催し、前回以上の人たちに日本文化に触れて楽しんでもらいたい。頑張ります」

専門家に聞きました！ 失敗に学ぶ 現地で役立つ人間関係のコツ



今月の教える人 おかもとりゅうた
岡本龍太さん

タンザニア/コミュニティ開発/2017年度4次隊・広島県出身
大学卒業後、大手生命保険会社に就職し、営業や人事を担当。2020年3月に協力隊活動を終え帰国。協力隊経験を生かしてタンザニアで仕事をしたいと、井崎 奨さん（タンザニア/体育/2016年度3次隊）、三戸勇輝さん（タンザニア/コミュニティ開発/2016年度4次隊）と20年12月にWATATU株式会社を設立し、代表取締役就任。タンザニアの農業事業のほか、日本の中小企業の海外進出支援や協力隊OVの就職支援などを展開する。

今月の
お悩み

今月のテーマ：約束した予定を守ってもらえない

セミナーに来ると言ったのに来なかったり、来たとしても大幅に遅れるという人が多いので、イライラします

（環境教育/女性）

地域の人を集めてコンポストの作り方を教えたり、ゴミの別の指導をしたりといった講習をしています。

ただ、開催日に「行くよ」と言ってくれていた人が来なかったり、集合時間になっても集まらなかったり、講習会中もあまり熱心ではなかったり。結果的にコンポスト作りも続く人がほとんどいません。

先輩隊員には「あるある話」と言われて慰められますが、イライラすることが多いので、気持ちの切り替え方などがあれば知りたいです。

岡本さんからの
アドバイス

まずは自分のイライラを書き出してみてください。俯瞰して自分の思考について考えてみよう



タンザニアOV3人でつづいた僕たちの会社、WATATUでは「協力隊転職ナビ」事業として現役隊員の方やOVに向けて就職活動や転職活動の支援をしています。事業の一環として現役隊員の活動の悩みに対応すべく、僕たちにモヤモヤをぶつけてながら思考を整理してもらおう「壁打ち企画」を実施したり、本当に必要な活動とは？」などのテーマを立てて現役隊員向けのオンラインセミナーを開催したりしています。そのため、OVや現役隊員の方からさまざまな相談を受けます。

皆さんを悩ませている任地の人間関係のイライラは大きく分けると四つあります。「物やお金をねだられる」「約束や時間を守ってもらえない」「生懸命やってくれない」「(からかいで)ばかにしてくる」で、この悩みは僕たちの隊員時代はもちろんです。それ以前の隊次のOVも感じてきたことだと思えます。

僕からのアドバイスは「書き出し」「自分はこういうことがつらい気になってしまおう」と客観視すること。書くことでたくさんあると思っていた悩みが案外少ないことに気づいたり、言葉にしてみると大したことではなかったと感じるようになります。例えば、「自分は時間や約束を守ってもらえないことがどうしようもなく嫌」ということを書き出したとします。次に「それはなぜか」と理由を深掘りしてみます。「自分は子どもの頃から時間や約束を守るようになってきた。それが人との信頼関係を築く上で最も基本的なことだと思っている。だから、時間や約束を守らない人について相手との信頼関係を築こうとしている」と感じてしまふんだ」というように、自己分析するんです。

ここまでやるだけでも、冷静さを取り戻して対応策を考えられるはずですが、さらに状況が許すなら、相手と対話してみよう。「私は時間や約束を守らない人を見るとイラッとしてしまふんだ。なぜなら、小さい頃から時間や約束を守るように言われてきて、それが信頼関係を築くために大事だと思ってきたんだけど、どう思う？」などと問いながら、相手の意見を聞いてみてください。

僕の経験からすると、時間に関して「バスが来ない」「家が終わらなかつた」などの説明をされたり、「なんで君はそんなに怒るの?」と逆に質問されたりして、わかってももらえないことのほうが多いと思います。が、それでも相手に自分の生きてきた環境や考え方は伝わると、その後の人間関係は違ってくるんじゃないでしょうか。

日系社会で野球指導 非日系の子どもも育成



たかやなぎ なおき
高江直哉さん

日系JV/ブラジル/2017年度3次隊・兵庫県出身

PROFILE

高校の教諭を務めた後、オーストラリアで日本語教育に携わりながら野球を教える機会があり、海外で本格的に野球指導をやりたいと協力隊に応募した。日系社会に残る日本文化を目にし、現在は日本で、文化を次世代に伝えたいと大阪府の能勢町で地域おこし協力隊として活動中。

配属先:サルバドール日伯文化協会

要請内容:選手への直接的な助言を行いながら、選手の保護者などが将来コーチになれるよう養成支援する。競技技術に加え、日本的な礼節、規範意識、チームプレーの考え方も伝える。

この職種先輩隊員に注目! 現場で見つけた 仕事図鑑

#0029

「野球」

分類:人的資源

派遣中:59人(累計:706人)

類似職種:ソフトボール

※人数は2024年1月末現在

大学の野球部を指導 競技の注目度をアップ



うえの しょうた
上戸翔太さん

マレーシア/2018年度2次隊・岡山県出身

PROFILE

高校時代、野球部の監督が協力隊経験者で、海外に野球用具を贈る取り組みに参加した。高校の教諭となり、母校で野球を教えるうち、指導の仕方を見つめ直したい気持ちから、協力隊に応募。帰国後はマレーシアにグループ会社を持つ主に人材派遣を行う会社に勤務している。

配属先:マレーシアプトラ大学スポーツセンター

要請内容:ソフトボールの認知度は高いものの野球は普及していない派遣国で、大学野球部のコーチとナショナルチームのコーチも兼任しながら、国際大会で活躍できる選手の育成を行い、野球の定着を目指す。

最高のやりがい

着任からほぼ1年後、サンパウロで開かれた野球の全国大会。子どもの部に参加するには選手の数が足りないため、子ども中心のチームに大人を混ぜて大人の部に出場しました。打撃ではかなわなくても、走力などで巻き返そうとの判断でした。決勝戦は9回表を終わって同点。9回裏の攻撃で勝ち越し、サヨナラ勝ちで優勝できました。「野球の勝ち負けで泣くことはないだろう」と思っていた選手たちが涙を流して喜んでいました。私も胸が熱くなりました。

中盤

高江直哉さんは日系社会青年海外協力隊としてブラジル北東部のサルバドール日伯文化協会に赴任し、日系の大人と子どもたちの各チームのほか、地域の非日系の子どものチームを指導した。

非日系の貧困層の子どもたちへの指導を行い全国大会優勝に導く

JICA海外協力隊には、27のスポーツ競技が職種として存在し、スポーツを通じた国際協力を担っている。「野球」もそうした職種の一つ。海外では野球がまだマイナーな国も多いが、野球の技術と共に礼儀やスポーツマンシップなども伝え、青少年の健全な育成に貢献している。

CASE 1

高江直哉さんは日系社会青年海外協力隊としてブラジル北東部のサルバドール日伯文化協会に赴任し、日系の大人と子どもたちの各チームのほか、地域の非日系の子どものチームを指導した。

高江直哉さんは日系社会青年海外協力隊としてブラジル北東部のサルバドール日伯文化協会に赴任し、日系の大人と子どもたちの各チームのほか、地域の非日系の子どものチームを指導した。

高江直哉さんは日系社会青年海外協力隊としてブラジル北東部のサルバドール日伯文化協会に赴任し、日系の大人と子どもたちの各チームのほか、地域の非日系の子どものチームを指導した。

高江直哉さんは日系社会青年海外協力隊としてブラジル北東部のサルバドール日伯文化協会に赴任し、日系の大人と子どもたちの各チームのほか、地域の非日系の子どものチームを指導した。

同僚・上司を自分のファンにし 予算、新企画を次々と実現した

上戸翔太さんが野球部の技術向上のために赴任したのは、マレーシアのプトラ大学のスポーツセンター。ところが着任してみると、「野球部は解散した。国際大会が近くなったら、また人を集める」と言われてしまった。

マレーシアで人気・実力のあるスポーツは水泳やラグビー、バドミントンなどで、大学も競技の強化に力を入れる一方、野球など、それ以外の競技は

同市内には貧困層に属する家庭も多く、非行や犯罪に走る子どももいた。日系人の中には、日系人は日系人同士の絆を大事にすべき、と考える人もいた。高江さんの交流は盛んではなかった。高江さんのカウンスラーパートナーは、日系人も非日系の子どもも野球を通じて健全に育ってほしいとの思いから、私費で野球場を建設し、非日系を含めた子どもたちを指導してきた。

平日の練習には子どもたちが集まるが、日系人が少ないサルバドールでは、9割以上が非日系の子どもたちだった。高江さんは「捕る・投げる・打つ」の基本から練習を始めた。皆、やんちゃだったが、運動能力は高かった。野球を見たことがない子どもも多かった。

あまり注目されていなかった。上戸さんは、チームづくりから活動を開始。現地でも知られていた日本の野球アニメを使い、野球に関心をもってもらおうきっかけに、野球部再建へメンバーを探した。3カ月もたつと、メンバーも集まり、練習も本格化してきた。「練習を続けさせるには試合だ」と考えた上戸さんは、大学対抗のトーナメント戦や、マレーシア在留外国人との国別対抗戦などを次々と企画した。

野球部強化には、練習環境の整備や遠征の予算も必要だ。大学のスポーツセンター長がカギだと判断した上戸さんは、センター長のもとに日参して関係を深め、野球部が活躍すると大学への注目も高まることを証明しようと考えた。

西武ライオンズのプロジェクトで道具の寄贈を受け、読売ジャイアンツとJICAの共同事業による野球教室も開催した。新聞やテレビで報道されると、センター長の考えは変わり、野球部の日本遠征や野球場の建設も承認してくれた。練習環境が整い、ナショナルチームに選ばれる選手も出た。

野球技術と共に上戸さんが伝えたかったのは、人や社会のために行動すること。象徴的なのは、自分がアウトになっても走者を進める犠牲バントだ。「犠牲バントの結果、点が入れば、バントを決めた人がヒーローだ」と言い続けるうち、選手たちはバントのサイに従うようになったという。

最大のピンチ

全国連覇を目指して練習を続けていた2年目の夏、エースがバイク事故を起こしました。ヘルメットをかぶらず、2人乗りをしていたようです。大会の旅費も大半の用具も、野球場のオーナーの善意でした。「感謝の気持ちがあったら、そんな無謀なことにはできないはず」と叱ると、練習に来なくなりました。「このまま野球をやめていいのか」と連絡し続けると、反省してくれて数週間後に戻ってきました。彼の活躍もあって、2年目も優勝。現在も時々連絡が来ます。



高江さんは、民族を超えて楽しもうという意味を込めて、チーム名を「ユニオンズ」と命名した

終盤

帰国

最大のピンチ

着任早々、「野球部は解散した」と知らされ、「自分は何しに来たんや」と思いました。やることなく、席に座ってパソコンをいじるだけなのが一番つらかったです。野球部をつくと決め、部員集めを始めました。自転車で大学内を回り、キャッチボールをしている人に声をかけました。「『ダイヤのA』(※)になってみないか」と日本の野球アニメを持ち出したり、ホームラン競争も企画したり。ソフトボールやクリケットの経験者も含め、必死で選手を集めました。

序盤

中盤

赴任



上戸さん(中央)が指導したプトラ大学野球部のメンバー

最高のやりがい

派遣から1年後、マレーシア在留外国人との国別対抗戦を企画・開催しました。注目を集め、野球を続けてもらうための「お遊び」の国際大会ですが、日本、韓国、インド、シンガポールなど、5カ国が参加しました。現地では野球はあまり盛んではありませんが、クリケットをやっている人はいて、投げる、捕る、は上手です。最後、インドチームに負けましたが、2位になりました。「上位に入ったらご飯をおごる」と約束したせいかもしれませんが、皆が大喜びしました。

中盤

帰国

※『ダイヤのA(エース)』…2006年から少年漫画週刊誌に掲載された寺嶋裕二原作の野球漫画。13年にテレビアニメ化され海外でも人気を博している。

展示のコツ5つのポイント

科学教育センターや移動教室、イベントのブースなどで行った展示について、興味を引いて、わかりやすく伝えるために私が気をつけていたことを紹介します。チョウの展示を例にしていますが、展示する内容によってアレンジしてください。



ポイント1 遠くからも目に入るように
なるべく大きなパネルで、人の視線の高さに展示する。

ポイント2 呼び込みのフレーズも大事
「本物のチョウがいるよ」「チョウの子ども（幼虫）を見たことある?」「箱の中に幼虫が〇匹いるけど見つけられる?」などと声をかけて子どもたちを呼び込みました。

ポイント3 パネルは1枚で1つのテーマに
1枚で1つのテーマに絞ることによって、わかりやすくなります。また、年齢層などによってパネルの組み合わせを変えて対応できるようにします。



ポイント4 先に自分がやってみせる
年齢が下がるほど、動くものに興味を示す傾向があるようです。そこで、見てみたい・触ってみたいと思わせるものを手前に配置。中には昆虫が苦手な子もいるので、まずは自分が触ってみせて、まねして体験してみたいようにしていました。

ポイント5 体験型の遊び・学びを取り入れる
チョウの卵、幼虫、さなぎに関しては、ケースの中やネットの中で植物と共に展示していたため、どこにいるか探してもらいました。植物に擬態した生物の姿も知ってもらえたと思います。

体の各部を穴埋め問題にしたワークシートを作成して、探しながら体のつくりも観察してもらおうようにしました



パネルの内容の例 (チョウの紹介)

- 左から1枚目: チョウの基本的な説明。昆虫の中でチョウがどんな生き物なのか、どんな種類がいるのか。
- 2枚目: 体のつくりとライフサイクルについて。花の蜜を吸うために口がストローになっていることや、さなぎを介して成虫になるという成長の仕方を紹介。
- 3枚目: 少し学術的な説明。チョウとガは同じ分類になること、チョウは昼行性でガの中には夜行性もいることなど。
- 4枚目: 食べものについて。幼虫が食べる植物と、成虫が蜜を吸う植物が、チョウの種類によって違うこと。



くしだ かえで
榎田 楓さん

今月の先生

(タイ/環境教育/2018年度3次隊・茨城県出身) 家族や大学の教諭など、協力隊経験者が身近にいた榎田さんは、大学で動物学を学んだ後、新卒で協力隊に参加した。バンコクの隣県にある科学教育センターに配属され、主に小中学生に身近な環境への関心を促す活動を行った。コロナ禍による一斉帰国を経て、再赴任した。2021年に帰国して、現在は民間企業に勤務。

ひきつけるアイデアを共有 みんなの教材づくり & アクティビティ

海外協力隊OVが派遣国の活動や生活で実践した、お役立ちアイデアをご紹介します。



まずは自分が触ってみせて、子どもたちに生き物と触れ合う楽しさを紹介した榎田さん

集まる・伝わる展示の5つのポイントを紹介

榎田さんが赴任したランシット科学教育センターには、主に都市部に住む小中学生たちが見学に訪れます。榎田さんは、子どもの頃からの飼育経験を生かして、主にチョウの生体の展示を行い、その手法が配属先からも高く評価されました。

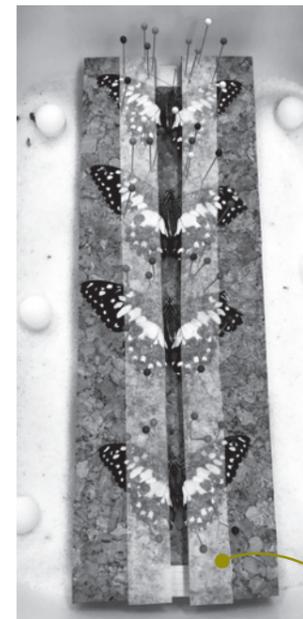
そこで、人が集まり、伝わりやすい展示のコツを5つのポイントを挙げて教えてもらいました。また、簡単な標本作りの方法も教えてもらいました。

「子どもたちに、身近に生き物の営みがあることを知ってもらうことで、環境にも興味を持ち、視野を広げてほしいという思いで活動しました。私の展示の手法が参考になったら嬉しいです」

チョウの標本の作り方

標本を作ると、生物をじっくり観察できますし、展示の現場でも子どもの興味を引きます。タイの人々は殺生を好まないで、私は飼育していたチョウの中で死んでしまったものを標本に使用していました。材料は乾燥に使う台と、待ち針か虫ピン、セロハンテープなどで。

①乾燥させる台を作ります。チョウの胴体が入るよう、材料を削るか、組み合わせるかして、真ん中にくぼみがある台を作ります。材料は、コルクや発泡スチロール、段ボール、木の板などが利用できます。



②死後硬直しているため、蒸気を当ててやわらかくし、羽を動かしやすいにします。

③乾燥用の台に羽を広げて固定します。2本のセロハンテープの粘着面同士を貼り合わせてくっつかないテープを作り、それで羽を押さえつけて、待ち針や虫ピンなどで留めます。胴体にも展示用に針かピンを刺します。

羽を押さえるものは、セロハンテープの他に紙の帯なども使用できます。

- ④1週間以上、乾燥させます。アリや他の虫に食べられないように、保管場所には注意してください。扉つきの棚や食品保存ケースなどに入れるとよいでしょう。
- ⑤お菓子の箱などを展示用の箱にして、標本を刺して並べます。標本は虫に食べられたり、壊したりしない限り、半永久的に保存できます。

※カブトムシやテントウムシなどの甲虫を、羽を広げずに標本にする場合は、ピンを刺して乾燥させるだけなので、チョウよりも簡単にできます。



屋外での展示ブースでも、美しいチョウの標本は注目を集める

シュエカツ記

帰国後、内定までの
就職活動の方法を聞きました。

大学卒業後に家庭用品の卸売会社に就職し、品質管理のために中国の工場に頻繁に出張していた北川 諒さん。自分が扱っている製品の現地の作り手を知りたい気持ちがあったが、短期出張で言語もできないため、コミュニケーションがままならず、もどかしい思いが残った。そうした生産者が暮らす現地で生活をし、深く知りたいと参加したのが協力隊だった。

協力隊での配属先はJICAの資金援助によって2000年にラオスに設立された造林センター。ここでは地域の手工芸品グループが、JICAの技術協力プロジェクトで日本の短期専門家が伝えたい「流しずき※1」の技法で手すき紙を作ったり、その紙から紙布を作ったりしていた。12年には香川県から丸亀うちわの生産技術も伝わっていた。そうした製品の売り上げ向上につながる活動が、北川さんへの要請だった。

「元々、伝統工芸に興味はあったのですが、ラオスで継承されている日本の伝統工芸に出会ったことで、興味がより強くなりました」

帰国してしばらくは就職のことは考えず、ラオスに紙すきの技術を伝えた高知県や、丸亀うちわを伝えた香川県など、伝統工芸が盛んな地域を訪れた。そして、東京都にある日本民藝館を訪れたとき、桂樹舎の染め紙と丸亀うちわの骨を使ったうちわに出会い、「それまでの自分の経験がすべてつながった」と感じました。

作り手に興味はあったが、作る側に自分なることは考えたことがなかったため、悩みもしたという。協力隊の同期や先輩、友人に相談し、背中を押されて桂樹舎に応募をした。

今は、作り手として、ひたすら紙をすく日々。製品として出荷もされているが、「まだまだ」と自己評価は厳しい。「今も、手仕事を生業にしている人たちが何を大切にしているのかを知り、情報発信をしたいという客観的な視点を持っていきます。自分が作り手となることで、新たに覚えてくるものがあるのではないかと期待しています」

ラオスと日本の 伝統工芸の融合を見て 自分の根本の興味に 気づいた



今月の先輩
北川 諒さん Ryo Kitagawa
ラオス/コミュニティ開発/
2019年度3次隊・兵庫県出身

就職先：有限会社 桂樹舎
事業概要：富山県の伝統的工芸品である手すきの八尾和紙を製造。和紙ステーションナリー、型染め(※1)和紙、型染め和紙加工品なども製造している。

北川 諒さんの略歴
1989年 兵庫県生まれ
2012年4月～18年5月 家庭用品の卸売会社に勤務
2018年5月～19年3月 国際協力のNGOにインターンとして勤務
2021年4月 協力隊員としてラオスに赴任
2023年4月 帰国
2023年9月 有限会社 桂樹舎入社

JICA海外協力隊ウェブサイト
「進路開拓支援のご案内」
https://www.jica.go.jp/volunteer/obog/career_support/index.html



※1 型染め… 和紙や布に模様を彫りぬいた型紙と、防染剤を用いて文様を染め出す、日本の伝統的な染色技法。
※2 流しずき… 日本独特の和紙の手すき方法の一つで、黄栌(すけた)で紙液液をすくい上げて縦横に動かし繊維を絡み合わせ、桁を傾けて余分な液を流すすき方。

1 協力隊時代 2021年4月～



① 現地の生産者を訪問して情報収集と交流を深める北川さん
② 国立リハビリテーションセンターで行ったうちわ作りのワークショップ

元々はラオスの産業商業局で活動をする予定でラオスに入国しましたが、コロナ禍によってロックダウンとなり、要請は白紙になってしまいました。その後、新たな要請内容が決まり、10月に農林省森林局の造林センターに配属されました。同センターは、森林資源の保護や活用に関する研修機関で、カジノキを原料として、手すき紙を作ったり、その紙から紙布を織ったり、うちわを作ったりして、現金収入につなげていました。その売り上げ向上につなげるためのニーズの分析や広報・宣伝活動、販路拡大のための情報分析などが私への要請内容です。私は何もわからないので、生産者のところに行ってひたすら質問するところから始めました。だんだんと生産者が、紙すきや紙布織り、草木染めの方法から、現地の事情まで、いろいろと教えてくれるようになりました。首都向けに手工芸品の情報を発信するため、パンフレットの作成、展示会への参加、ワークショップなどを行いました。

2 帰国 2023年4月

日本民藝館を訪れた際、売店に置いてあったうちわに気づきました。いいなと思って聞いたら、そのうちわの紙は富山の八尾和紙、骨は丸亀うちわだと教えてくれました。自分がラオスでやってきたことが重なっていることに驚き、その八尾和紙を作っている桂樹舎のホームページを見ると、「急募、和紙製造」と書かれていたので、応募することを決めました。

3 書類提出 2023年7月

会社に問い合わせからハローワークで紹介状をもらい、履歴書、志望動機書、職務経歴書を持って、自宅がある千葉から富山へ向かいました。志望動機書では、ラオスでの和紙作りの経験のほか、日本とラオスに共通する工芸品の課題などを挙げ、作り手として自然や文化、伝統などの情報を発信したいと書きました。

4 面接

会社に行って書類を手渡し、そのまま社長との面接になりました。面接では持参したラオスの工芸品なども見ていただき、途中から工芸品の話で盛り上がり、2時間半くらい話しました。実際に物を見せながら活動や考えを伝えたことで、関心を持たれたのだと思います。1週間後に採用の連絡が来ました。

2023年7月 採用決定 ▶ 9月 入社

現在の仕事

会社には紙すき部門と染め部門があり、約20人の職人と社員が手作業で紙すき、型染めなどを行っています。私は、周りの先輩にアドバイスをもらいながら、毎日ひたすら紙をすいています。紙すきは、それなりにすけるようになるまで5年、一人前になるまで10年といわれていて、今はまだ失敗もたくさんしています。技術が身につくまで時間はかかりますが、今はのびのびと仕事をさせてもらっています。ラオスでも日本でも、製品に価値を見いだしたり、安らぎを得たりする人がいる以上、この業界には長く続いてほしいし、将来は自分の体験から学んだことを多くの人に伝えたいと思っています。



① 桂樹舎に隣接する「和紙文庫」では紙をテーマに貴重な民芸品・工芸品を展示している
② 紙すきに取り組む北川さん

後輩へメッセージ

自分の根っこにある興味、無意識に大切にしてきたものが、やはり大切なものなのだと気づかされたのが協力隊の経験でした。価値観が変わったというよりも、自分が大切にしているものが深まったという感覚です。抽象的な言い方になってしまいますが、その部分を大切にすれば、自分が進む方向もおのずと見つけられるのではないかと思います。協力隊の活動では、周りの人に助けられていると思いますが、これから先も助けてくれる人はいるはずなので、飛び込んでみるのもありだと思います。

派遣から始まる未来



進学、非営利団体入職や起業の道を選んだ先輩隊員

株式会社サンオリエント
取締役社長

磯崎慎一さん Shinichi Isozaki
ミクロネシア/建築/1998年度3次隊、プータン/建築/
2001年度9次隊・岡山県出身



独立開業から20年、M&Aを決断 役立ったのは協力隊経験で得た柔軟性

「JICA海外協力隊の経験が会社の運営に直接役立っているとはいえませんが、日本を離れて生活する中で、人をだまそう、自分のもうけだけを優先しないという日本人のアイデンティティを見直せたのは、経営理念や人生観に影響を与えています。淡々としながらも確信に満ちた口調で語るのは岡山県で建築会社「サンオリエント」を経営する磯崎慎一さん。ミクロネシアとプータンでの協力隊活動を経て2003年に設立した会社はリーマンショックなどを乗り越えて現在に至る。地元・倉敷市の工業高校で建築を学んだ磯崎さん。卒業後は大手ゼネコンの四国支店に配属された。現場監督として地図に残るような建物をゼロから造る仕事に面白さを感じる一方、努力して結果を出しても同期の大卒社員との間に給与格差があることに理不尽さを感じ、やがて独立を決意。勤務の傍らで一級建築士の資格も取得したが、営業などの知識はなく、独立開業しても何をすればいいのか想像もつかず、迷いがあった。その時に社内報の取材で知り合ったフリーライターから「アイデアがないなら、海外に行つて視野を広げてみたら？」と協力隊という選択肢を教えられた。

さらに、バブル経済が崩壊し、建築会社の買いたたきが常態化した時代的背景も、磯崎さんの背中を押した。「何十年も使われる建築物を造る私たちの技術は安売りするべきものではない。日本にいるより海外を知ってみよう」との思いもありました」

1999年に協力隊員としてミクロネシアへ赴任した磯崎さんは、ヤップ州公共事業局の契約設計管理課に配属され、全国規模のスポーツ大会に向けた運動施設などの設計に従事。約束や工期を守る感覚が希薄な社会にカルチャーショックを受ける一方、人々との交流で人生観が変わる経験もあった。

国防を米国に委ねているミクロネシアでは、国民が米軍兵士に採用されている。磯崎さんが親しくなった若者も海兵隊を志望していた。「命の危険があるからやめておけと軽く言ったら、離島出身の自分が今の境遇から抜け出すには、軍隊に入ることぐらいしかチャンスはない、と言いつ返されたので。安易なことを口にしてしまったと謝ると同時に、努力次第で職業を選べる日本の良さを改めて知りました」

日本で暮らして働いているだけでも幸運なのだから、仕事で多少失敗してもいいじゃないか——。このような確信を得た磯崎さん。ミクロネシアからの帰国後、プータンへの8カ月間の短期派遣や日本国内の建築会社での1年間の勤務を経て、自ら建築業で起業。

① ミクロネシア派遣時代、現地の人たちと行ったサッカーの試合で。公私を問わず人々との交流を楽しんだ
②③ サンオリエントは公共事業から個人の注文住宅までさまざまな建築業務に対応しており、コンサルティングから施工管理まで総合的に担えることを強みとしている



経営者としての歩みをスタートした。「協力隊経験を通じて視野が広がったことも会社経営に生きている」と話す磯崎さんは、2022年に自ら設立したサンオリエントの株式を売却し、他社のグループ会社にするという大きな決断をした。いわゆるM&Aで、自らは代表を退き、サンオリエントを率いる取締役社長のポストに就いている。その狙いは、自分に不測の事態があっても会社の事業を継続させることだ。「建築物にはメンテナンスなどで関わり続ける必要があり、建築業界では事業継続が経営者としての大切なテーマです。ただ、中小企業では社長に責任が集中しがちなので、社長の僕が倒れたらおしまいです。50歳を過ぎてから対策を本気で検討し、優秀な部下の

育成などいろいろな手法を検討していましたが、どれも問題の解決につながりそうありませんでした」

そして逆に、「トップである自分の立場を一つ落とし、誰かの上に立つてもらおうのほうがいいか」という視点の転換に至り、M&Aを決めた。

「一緒になった株式会社高翔のトップは僕より若く、不動産事業が強みです。受注したり販売したりするプロなので、家を建てるのが得意な僕たちと補充し合っています」

苦勞して育て上げた会社の代表権を他人に譲るといふ決断は簡単なものではない。それでも、従業員や顧客を安心させるべくM&Aを決めて実行した磯崎さん。協力隊で培った広い視野と柔軟な人生観が彼を支え続けている。

磯崎さんの歩み

1969年、岡山県倉敷市に生まれる。小学生の時にカンボジア内戦の悲劇をテレビや写真で知り、国際協力に目覚めた。



「小学生の時、カンボジア内戦の悲劇を知って、乾パンなどをたくさん運べる船を買うような大人になろう、と決意したことを覚えています。その後、工業高校の建築科に進むことも、一発もうけられる可能性がある!と決意しました」

1987年、大手建設会社に就職し、現場監督や施工管理などを担当。



「現場では、年上の職人さんに対して礼儀をわきまえつつも、指示を出したりする必要があります。ただ、私は上下関係の厳しい体育会系の経験を積んでいたため、幸いにコミュニケーションには困りませんでした」

1999年、協力隊員としてミクロネシアへ。



「要請は施工管理だったのですが、行ってみると設計業務を求められました。一緒に作業するのはアメリカ人やフィリピン人。現地の人は設計に携わらないので、技術移転に貢献できたかは疑問が残りますが、とにかくマンパワーとして活動を全うしました」

2001年、短期隊員としてプータンに赴任。



「8カ月間だけでしたが、従来は現地で一般的なだった石ではなくプレハブで学校を建てるため、設計などについてアドバイスをしました」

2003年、岡山県でサンオリエントを設立。



「開業に先立ち、独立を目指していることは伝えた上で、1年間は岡山市内の同業他社でお世話になって人脈を広げたりしていました」

2022年、兵庫県の不動産会社との間でM&Aを実行。



「隊員経験を通じて『幸せ』や『成功』の定義が変わったと感じています。東日本大震災やリーマンショックなど激動の時期を経て、今、日本で無事に事業を続けられているだけでラッキーとさえ思えます」

INFORMATION

JICA青年海外協力隊事務局からのお知らせ

NEWS

読売巨人軍女子チームがニカラグアを訪問 JICA海外協力隊が支援する現地女子野球チームと試合・交流

スポーツ振興を通じた国際貢献のため、JICAと協力関係にあるプロ野球・読売巨人軍。その女子チームが、2024年1月6日～11日の日程で選手12名他のメンバーで中米・ニカラグアを訪問し、ニカラグア的女子野球チームとの交流試合や子どもたちへの講習会などを行いました。同国的女子野球のさらなる活性化と、スポーツを通じた開発のために実現したものです。また、2024年は巨人軍創立90周年、JICAのニカラグア協力60周年。巨人軍にとって90周年の最初の公式イベントとして、また巨人軍女子チームにとって初めての海外遠征としてこの訪問が実現しました。ニカラグアでは「女性の活躍」「ジェンダー平等の社会実現に向けた取り組み」が国の発展の重要事項とされています。巨人軍女子チームの来訪は、女性の活躍、ジェンダー平等を推進するニカラグアおよびJICAにとって「ジェンダーと開発」の実践にもつながる貴重な機会となりました。



ニカラグア代表チーム、巨人軍女子チーム、ニカラグア野球連盟会長、マナグア市長、副市長、中村大使、JICA小谷所長の集合写真

NEWS

大学生がガーナで協力隊体験 JICA海外協力隊体験プログラム

JICA海外協力隊の応募促進として、大学生(九州大学・関西学院大学の各4人ずつ、計8人)が協力隊の体験を行うJICA海外協力隊体験プログラム。第1回が2024年2月18日～3月9日にガーナで行われました。JICAガーナ事務所でのブリーフィング後、活動パートナーのNGO Global Action for Women Empowerment (GLOWA)のスタッフと学生との間で、活動内容について活発な意見交換が行われました。本プログラムは学生たちが計画した活動内容によってプログラムの構成が変わるため、どのような活動になるかは参加する学生次第。青年海外協力隊事務局は、学生たちが失敗を恐れずにチャレンジする姿を応援しています。

NEWS

JICA海外協力隊事業理解促進調査団が ラオスを訪問

2024年2月11日～15日、和歌山県と奈良県のJICAボランティア応援団幹部(櫻畑会長、乾会長ら)8人とJICA関西3人で構成される標記調査団がラオスを訪問しました。和歌山出身の高根 碧 隊員(障害児・者支援/2022年度1次隊)をはじめとする5名の隊員の活動現場を訪ね、配属先関係者とも意見交換しました。両県の応援団幹部は、現場での隊員の情熱に直に触れ、「百聞は一見に如かず」、「任期後も含めて活躍を更に応援したくなった」との感想が伝えられました。現地での様子はJICA関西のFacebookをご覧ください。

■ JICA関西 公式Facebookより JICA海外協力隊事業理解促進調査団ラオス訪問投稿記事

現地視察レポート①
<https://www.facebook.com/JICAKansai/posts/pfbid0331ipnaqgUrbqZbXL2NKW3SQdzTVBqFCsKqYHPr574NxcjWgVFhG5sLUUHDHQuxvI>

現地視察レポート②
<https://www.facebook.com/JICAKansai/posts/pfbid04QYKJi4XrhgTfJ35X39r6c1FJCKJtMy9FTU5VAewU2qLJQPRh7hV52YsKgnRxy11>

現地視察レポート③
<https://www.facebook.com/JICAKansai/posts/pfbid02QdnX3gqbFtdzQdn3dcYpCjwDFY4rycU2uiNETN2jYvcCswQwkj5rExnEtuAsQ9l>

現地視察レポート④
<https://www.facebook.com/JICAKansai/posts/pfbid0QXEaRDUfJzdxIVJHqFYHeg3YsonRWwaujiRVVGrwC2rG4uQF92sGkCzWjujeTmnTL>

クロスロード [2024年4月号]

第60巻第3号 通巻695号
発行日 2024(令和6)年4月1日

編集・発行：独立行政法人国際協力機構
青年海外協力隊事務局
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-4-1竹橋合同ビル

制作協力：一般社団法人協力隊を育てる会『クロスロード』編集室
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-28-7昇龍館ビル2階
ロゴタイプデザイン・誌面デザイン：(株)AND
印刷・製本：弘報印刷(株) 校正：佐藤智也

『クロスロード』は、
JICA海外協力隊のウェブサイト
でも公開しています。

<https://www.jica.go.jp/volunteer/outline/publication/pamphlet/crossroad/index.html>



本誌へのご意見・感想をお聞かせください。
アイデアも大募集中です。

今号の『クロスロード』はいかがでしたか。ぜひご意見やご感想を編集室のメールにお寄せください。「こんな記事があれば派遣先で役立つのに」「こんな記事なら読みたい」といったご要望やアイデアも随時募集しています。

『クロスロード』編集室
crossroads@sojocv.or.jp



編集後記

P5の高木史郎さんが手がけた「センターオブグラレージ」へ。3Dプリンタで義足を作る「インスタリム」も入居中で、ここから世界を変える事業が創り出されるのかとワクワクしました。(干川美奈子)

P28-29「シューカツ記」の北川 諒さん。派遣国のラオスで日本の伝統工芸の素晴らしさを知り、帰国後、紙すき職人の道に飛び込んだ人生に、かっこいいと感銘を受けました。(阿部純一)

世界一生物多様性が豊かといわれる国、コスタリカ。中学・高校は生物部で、環境教育OVの僕にとって憧れの国を、P14-20の第2特集で取り上げました。いつか行ってみたい! (飯淵一樹)

JICA海外協力隊派遣現況

(2024年2月末現在)

現在の派遣国数
74カ国



(単位：人)

■ アフリカ地域

国名	一般	シニア
ウガンダ	20	3
エチオピア	4	
ガーナ	49	
ガボン	8	1
カメルーン	17	
ケニア	33	
ザンビア	16	1
ジブチ	14	
ジンバブエ	8	
セネガル	24	
タンザニア	16	
ナミビア	10	
ベナン	23	
ボツワナ	30	3
マダガスカル	28	
マラウイ	27	
南アフリカ共和国	7	1
モザンビーク	33	
ルワンダ	40	

■ アジア地域

国名	一般	シニア
インド	26	
インドネシア	28	
ウズベキスタン	16	3
カンボジア	30	
キルギス	29	
ジョージア	6	2
スリランカ	25	
タイ	24	4
タジキスタン		1
ネパール	2	
バングラデシュ	1	
東ティモール	21	
フィリピン	9	
ブータン	27	5
ベトナム	42	
マレーシア	17	6
モルディブ	2	
モンゴル	34	4
ラオス	21	3

■ 大洋州地域

国名	一般	シニア
キリバス	1	
サモア	1	1
ソロモン	15	
トンガ	4	1
バヌアツ	9	
バブアニューギニア	7	
パラオ	28	4
フィジー	16	2
マーシャル	3	2
ミクロネシア	1	1

■ 欧州地域

国名	一般	シニア
セルビア	5	

■ 中東地域

国名	一般	シニア
エジプト	33	
チュニジア	16	2
モロッコ	30	1
ヨルダン	29	1

■ 中南米地域

国名	一般	シニア	日系一般	日系シニア		
アルゼンチン	4		1	3		
ウルグアイ				7		
エクアドル	25			2		
エルサルバドル	19					
キューバ				2		
グアテマラ	29			1		
コスタリカ	27					
コロンビア	17			5		
ジャマイカ	5					
セントルシア	20					
チリ	12			2		
ドミニカ共和国	16			8		
ニカラグア	16			2		
パナマ	8			2		
パラグアイ	29			5	1	
ブラジル					47	3
ペルー	11					
ペルー	49				1	
ボリビア	43				2	1
ホンジュラス	27					
メキシコ	14				12	

■ 合計

	一般	シニア	日系一般	日系シニア	小計
派遣中 (男性/女性)	1,332 (576/756)	96 (79/17)	62 (26/36)	7 (3/4)	1,497 (684/813)
累計 (男性/女性)	47,542 (25,059/22,483)	6,685 (5,399/1,286)	1,613 (625/988)	555 (256/299)	56,395 (31,339/25,056)



／ 教える人 ／

ほごき まい
箱崎 舞さん



チリ/環境教育/2008年度2次隊・岩手県出身
環境教育隊員として南米チリ第6州ペラリージョ村で活動後、チリ三菱商事の現地職員として5年半勤務。協力隊時代にチリワインの幅広さに目覚め、ワインについて学ぶようになる。帰国し、東北のワイン文化とチリワインの底上げのため、実家のある宮城県七ヶ浜町で2016年11月にブエンモスト株式会社を設立。小規模農家が手がけるプレミアムチリワインを輸入している。今年中に七ヶ浜町にワイナリーも設立予定。
ブエンモスト▶ <https://buenmosto.myshopify.com/>



From Chile

白ワインにも合う！
チリのオンセ

Pan con palta
(パン コン パルタ)

●材料(2人分)

- アボカド 1個
- レモン 1/6個
- オリーブオイル 大さじ2
- 塩 適量
- 食パン(8枚切り) 3~4枚

●レシピ

- ① アボカドの中身を取り出し、フォークの背でつぶす
- ② ①にレモンを搾り、オリーブオイルと塩を入れて混ぜる
- ③ 耳をカットした食パンを三角形になるように半分に切り、表面に焼き目がつき、カリカリになるくらいに焼く

<オンセとは?>

チリではオンセと呼ばれる夕方のお茶の時間があります。遅い夕食の前のつなぎとしてや、ヘルシーに夕食代わりにする人もいます。大き目のマグカップに砂糖を3杯くらい入れた紅茶(もしくはコーヒー)と、カリカリに焼いたパンと具材が定番です。私は具材にはアボカドディップが大好きで帰国後もよく作っていますが、このほかに炒り卵やチーズ、ジャムやバターということもあります。

<アドバイス>

パンにつけるために少し濃いめにしたいので、②で塩の量を調整してください。アボカドディップはレモンとオリーブオイルを加えることでアボカドの青々とした味わいが際立ち、チリの爽やかな白ワインにも好相性なので、ワインとのペアリングも試してみてください。炒り卵はチリでは塩のみの味つけて、炒める時にバターよりもサラダ油を使っていた記憶があります。塩味が強めなのでレモンを搾って食べる方もいました。



■「赴任当初、言葉の壁はあってもチリワインを飲みながら慣れていった」と箱崎さん
■ホテルで提供されたオンセの具材は、炒り卵とバター。ずっしり食べ応えのあるアマサドという伝統的な田舎のパンと共に

あの日、
地球の、
あの場所で。

任地の思い出を聞きました。

歌って踊ってにぎやかな
ガーナのミサ

さまざまな民族が暮らしていて、数十種類もの現地語が存在するといわれるガーナ。伝統的な暮らしを色濃く残したこの国で暮らして印象的だったのは、とにかく皆が明るく陽気なこと。そして、いつも歌や踊りが生活の中にありました。私が派遣された南部はキリスト教徒が多い地域でしたが、敵かなイメージのある教会のミサさえも、びっくりするほど熱狂的です。

まず、集まってくる人々——特に女性はそれぞれに一張羅でおめかししてやって来ます。毎週のミサが、新しい服や髪形を見せ合ったりする交流の場となっていました。そして



Illustration = 牧野良幸 Text = 飯淵一樹(本誌)

民族衣装に身を包んだ神父さんが皆の気持ちを盛り上げるような大声で聖書の言葉を語り始めると、集まった人々も叫ぶように復唱します。やがて祈りの時には全員が立ち上がり、ノリノリになって歌ったり踊ったりします。ギターやドラムも登場して、音楽隊がまるでロックバンドのようでした。

普段からにぎやかなミサですが、年越しに向けて行われるミサは一層の大盛り上がり。日付の変わる2時間ほど前に始まり、やはり神父さんの言葉に合わせて熱狂的に祈りの言葉を叫ぶうちに、全員がトランス状態のようになっていきます。誰もが興奮のままに跳ねたり、頭上に掲げた布を音楽に合わせて回したりともはや教会ではなくライブハウスにいるかのような様相に。私も楽しくなっていく。一緒に跳びはねながら、世の中にはいろいろな祈り方があるものだと感じしてしまいました。

かなやあい
金谷彩生さん
JICA大分デスク
ガーナ/美容師/2013年度1次隊・東京都出身

暮らしている市、町、村



マラウイでは中程度の大きさとなるムジンバの町

首都から北に約250キロ離れたムジンバで活動しています。スーパーでは最低限の食材や生活用品が手に入りますし、レストランや屋台もあります。ムジンバは標高が高いため冬は気温が10°Cくらいまで下がり、けっこう冷えます。アフリカで寒さ対策が必要になるとは思いませんでした。住まいは町よりさらに高地にあるため、毎日がちょっとした山登りです。

食べ物



レストランのメニュー
の中でお気に入りの
チキンの炭焼き

レストランで食べられる炭焼きのチキンが気に入っています。味つけは塩コショウですが、じか火焼きで香ばしくおいしいです。あまり料理が得意ではないので、自炊は週に1、2回。外に出て七輪でチキンをゆでたり、野菜を炒めたりして、スーパーで見つけたお気に入りの調味料で味つけて食べています。



自炊の日は晴れていれば外の七輪で調理をする

公開！ 私の派遣国生活



[マラウイ]

てらだ むつみ
寺田 睦さん

(薬剤師/2022年度4次隊・千葉県出身)

活動の様子



調剤室で活動中の寺田さんと同僚の方々

ムジンバ県南部病院に赴任して、主に5Sの推進・定着と、薬剤師として専門知識の指導をしています。調剤する環境が雑然していると、薬の取り違いなどの間違いが起こる可能性があるため、プレゼンなどを通じて5Sを広めています。職場には学生が実習に来ていて、空き時間に薬に関するクイズを出しているのですが、「ムツミが言っていたことがテストに出て学位が取れた」と報告があった時は嬉しかったです。

住まい



メインのベッドルーム、小さい部屋が3つ、トイレ付きのシャワールームという間取りです。シャワーはお湯が出ないため、湯を沸かして、おけで水と混ぜて入浴しています。キッチンはなく、家電はIHクッカーと冷蔵庫のみですが、停電が多いのであまり活躍していません。防犯のためにウォッチマンと呼ばれる人が家の周りを警備してくれていて、その方や近所の人たちとコミュニケーションを取るのが楽しいです。



1 室内にはキッチンも流しもなく、IHクッカーは椅子の上で使っている
2 仲良しのウォッチマンと寺田さん

写真提供 = 寺田 睦さん Text = 阿部純一 (本誌)